

学校法人太田アカデミー

太田医療技術専門学校

厚生労働省指定養成施設

介護福祉学科

2024年度 シラバス

OCMT

OTA COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY

授業評価の基準

授業では、以下に挙げる方法と基準により授業評価を行う。

1 授業評価の方法

各科目の学修成果は、前期及び後期末に行う筆記試験又は実技試験の得点をもって評価する。科目によっては、受講態度や課題の提出状況、小テスト、中間試験等により数値化した得点（平常点等）を試験素点に加減することで評価する（平常点等を考慮する科目はシラバスに記載する）場合もある。

また、各授業における欠席の上限を定めており、この時間を超えて授業を欠席した者には当該科目の試験の受験資格を与えず、単位不認定とする。

なお、授業開始後 30 分を経過するまでに教室に入室した者は「遅刻」、授業終了の定刻前に教室を退室した者は「早退」とし、遅刻及び早退の累計が 3 回となった場合は 1 回の欠席とする。

2 授業評価の基準

試験の結果（得点）により、以下の基準で評価する。ただし、これとは別に基準を設定して評価を行う場合には別途授業計画（シラバス）に記載し、またその旨担当教員が授業において告知する。

試験の得点	評価と単位認定
80～100点	評価「優」 単位を認定する。
70～79点	評価「良」 単位を認定する
60～69点	評価「可」 単位を認定する。
60点未満	評価「不可」 単位を認定しない。

なお、本試験の得点が60点未満だった者については再試験を実施し、再試験の得点が60点以上だった者については、評価を「可」として単位を認定する。それ以外の者には単位を認定しない。

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	人間の尊厳と自立 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	井上 千帆		
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」第2版(中央法規出版) 本校作成プリント						
科目概要	<p>「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。</p> <p>また、介護福祉士の実務経験を活かし、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎について講義する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.生活場面から自立に関する基本的な考え方、基本的ニーズと生活支援の関連を理解する。 2.人権思想がどのような経緯で誕生したかを理解し、歴史的変遷を知る。 3.権利擁護の考え方を理解する。 4.介護場面において、尊厳の保持と自立支援がどのように行われているか理解する。 5.介護福祉士としての職業倫理観を身につけることができる。 						
評価方法 基準	<p>期末に筆記試験実施を実施、また各授業において関連内容の課題の提出物を求める。評価方法として、筆記 90%、平常点・提出物 10%とする。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験終了後に答案を返却、60点以下の学生においてはオリエンテーション実施後再試験を実施する。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>国家試験の出題数が少ないものの、社会問題や時代を反映した内容の出題があるため、常にニュースや新聞などをチェックしておく必要がある。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス	人間の理解 人間の尊厳と自立を学ぶにあたり	
2	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体	
3	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権思想の潮流とその具現化	
4	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権や尊厳に関する日本の諸規定 人権や尊厳に関わった人物とその思想	
5	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 一人は人をどう援助しようとしてきたか	
6	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 一戦後の新たな福祉のあり方への模索	
7	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権尊重と権利擁護 [演習] 生命倫理について考える	
8	演習	人権思想から人間の尊厳について学ぶ 介護保険法における尊厳と自立を考える	
9	自立のあり方	自立の概念 自立概念と多様性	
10	自立のあり方	自立と自律 自立とは	
11	自立のあり方	介護を必要とする人の自立と自立支援	
12	自立のあり方	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、 自立支援の関係性	
13	演習	利用者の主体性を大切にした声掛けを考える “尊厳死”と“安楽死”	
14	演習	利用者の自立支援について考える まとめ、振り返り	
15	まとめ	振り返り、期末考査	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	1
科目名	人間関係とコミュニケーション <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	茂田井 美絵		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座1「人間と社会」第2版(中央法規出版)						
科目概要	<p>1.対人援助に必要な人間関係を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を身につける。</p> <p>2.介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養う。</p> <p>3.介護福祉士の実務経験を活かし、福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基礎となる倫理観について解説する。</p>						
到達目標	<p>1.人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。</p> <p>2.介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解し習得できる。</p>						
評価方法 基準	各期末に筆記試験を行い、90%とする。さらに、各授業での課題や提出物、授業への取り組み姿勢を平常点とし、筆記試験の得点に10%で評価し加点する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	授業前に前回の復習を行い、授業内容の習熟度を確認する。小テストにおいては、自己採点しテキストの該当箇所を確認を行い再度自己学習の課題とする。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>他者とのコミュニケーションを目的とし、開かれた姿勢で授業に取り組むことを望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎	学習のねらい、評価方法 人間関係を形成するためのコミュニケーション	
2	人間関係の形成とは 人間と人間関係①	人間らしさのはじまり、自分と他者の理解 ジョハリの窓、[演習]認識のずれ	
3	人間と人間関係②	人間関係を形成するために必要な心理学的支援 (発達心理学からみた人間関係)	
4	人間と人間関係③	人間関係を形成するために必要な心理学的支援 (社会心理学からみた人間関係)	
5	人間と人間関係④	[演習]少数派が集団を変えるためには、 人間関係とストレス、自己分析	
6	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎	コミュニケーションの概念 コミュニケーションの基本構造	
7	対人関係における コミュニケーション①	コミュニケーションの手段 [演習]関係性によるあいさつの違い	
8	対人関係における コミュニケーション②	言語的・非言語的コミュニケーション [演習]非言語コミュニケーションの種類	
9	対人関係における コミュニケーション③	人間関係を形成するためのコミュニケーション 機能	
10	対人援助関係と コミュニケーション①	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション [演習]アサーティブコミュニケーション	
11	対人援助関係と コミュニケーション②	対人援助における基本的態度 [演習]傾聴について考える	
12	対人援助関係と コミュニケーション③	援助的人間関係の形成とバイスティックの7つの原則	
13	対人援助関係と コミュニケーション④	[演習]バイスティックの7つの原則、ロジャースの理論と技法	
14	組織におけるコミュニケーション	組織の条件とコミュニケーション、組織における情報の流れ、組織において求められるコミュニケーション	
15	前期まとめ・期末考査	前期のまとめ、定期考査	

回	単元	内容	備考
16	介護実践における チームマネジメント①	ヒューマンサービスとしての介護サービス	
17	介護実践における チームマネジメント②	介護現場で求められるチームマネジメント 介護実践のマネジメントと組織の運営管理	
18	介護実践における チームマネジメント③	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	
19	ケアを展開するための チームマネジメント①	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み、[演習]チームの種類	
20	ケアを展開するための チームマネジメント②	チームでケアを展開するためのマネジメント、 [演習]情報共有の場	
21	ケアを展開するための チームマネジメント③	チームの力を最大化するためのマネジメント、 リーダーシップとフォロワーシップ	
22	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント①	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	
23	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント②	介護福祉職としてのキャリアデザイン	
24	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント③	介護福祉職のキャリア支援・開発 人材育成や人材管理、OJTとOff-JT	
25	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント④	介護実習とスーパービジョン [演習]スーパービジョンの機能とは	
26	人材育成・自己研鑽のための チームマネジメント⑤	自己研鑽に必要な姿勢 [演習]介護福祉士のキャリアイメージ	
27	組織の目標達成のための チームマネジメント①	介護サービスを支える組織の構造 組織の運営管理	
28	組織の目標達成のための チームマネジメント②	介護サービスを支える組織の機能と役割 介護サービスを支える組織の管理	
29	組織の目標達成のための チームマネジメント③	[演習]施設における災害対策	
30	後期まとめ・期末考査	後期まとめ、定期考査	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	1
科目名	社会と制度の理解 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座2「社会の理解」第2版(中央法規出版) サブテキスト 書いて覚える!合格ドリル2025(中央法規出版)						
科目概要	<p>1.介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。</p> <p>2.制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる。</p> <p>3.地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる。</p> <p>4.介護福祉士及び社会福祉士としてのソーシャルワーク実践の実務経験を活かし、事例から介護実践に必要な社会保障の制度・施策、及びインフォーマル支援について考えられる講義とする。</p>						
到達目標	<p>1.個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に習得できる。</p> <p>2.対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。</p> <p>3.日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについての理解を学ぶ。</p> <p>4.高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度、施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。</p>						
評価方法 基準	<p>期末ごとに筆記試験を実施、各单元ごとの小テストと授業の取り組み姿勢を、それぞれ90%・10%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施(学則に準じて評価)。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>小テスト・試験の採点后、答案を返却する。理解が不十分な点については、各自復習や課題の履修において理解を深める。不合格者については、個別対応とする。</p>						
事前準備	<p><input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり</p> <p>授業毎において、テキストの演習問題や国家試験過去問題の実施するため、再復習を望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	社会と生活のしくみ① 生活の基本機能	生活の基本機能、「生活」への接近方法、 「社会生活」のメカニズム、家庭生活の機能	
2	社会と生活のしくみ② ライフスタイルの変化	生活と働き方の変化、少子高齢化と健康寿命	
3	社会と生活のしくみ③ 家族の機能と役割	家族の概念とその変容、家族の構造や形態、 家族の機能とその変化、家族間の多様化	
4	社会と生活のしくみ④ 社会・組織の機能と役割	社会・組織の概念、社会・組織の機能と役 割、 グループ支援・組織化	
5	社会と生活のしくみ⑤ 地域、地域社会	地域、地域社会、コミュニティの概念、地域社会の 集団、組織、地域社会の変化	
6	社会と生活のしくみ⑥ 地域社会における生活支援	生活支援と福祉、自助・互助・共助・公助、 家族と生活の機能、地域と生活支援	
7	地域共生社会の実現に向け た制度や政策	地域福祉の理念、地域福祉の歴史的展開、 地域福祉の推進、災害と地域社会	
8	地域共生社会	地域共生社会をめざす社会的背景、地域共生社 会の理念と実現に向けた取り組み	
9	地域包括ケア	地域包括ケア理念、地域包括システム、	
10	社会保障制度① 社会保障の基本的な考え方	社会保障の意義と役割、社会保障の目的と機 能、ライフサイクルからみた社会保障	
11	社会保障制度② 日本の社会保障制度の発達	社会保障制度の歴史を学ぶ意義、日本国憲法 と社会保障、国民皆保険・皆年金の確立	
12	社会保障制度③ 日本の社会保障制度の発達	社会保障の拡充、社会保障の見直し、介護保 険と福祉の考え方の変化、社会保障構図改革	
13	社会保障制度④ 日本の社 会保障制度のしくみ	社会保障をささえるもの、社会保障の実施体 制、社会保障のしくみと体系、年金制度	
14	社会保障制度⑤ 日本の社 会保障制度のしくみ	医療保険、介護保険、雇用保険と労働者災害 補償保険法、各種社会扶助	
15	前期のまとめ	振り返り、定期考査	

回	単元	内容	備考
16	社会保障制度⑥ 現代社会と社会保障制度	少子高齢化の進行と社会保障、財政問題と社会保障、持続可能な社会保障制度への道	
17	高齢者保健福祉と介護保険制度①	高齢者保健福祉に関する歴史、人口の高齢化と高齢者保健福祉	
18	高齢者保健福祉と介護保険制度②	高齢社会対策基本法、老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律	
19	高齢者保健福祉と介護保険制度③ 介護保険制度	介護保険制度創設の背景と目的、介護保険制度のしくみの基本的理解	
20	高齢者保健福祉と介護保険制度④ 介護保険制度	介護保険制度における組織、介護支援専門員の役割、介護保険制度の動向	
21	障害者保険福祉と障害者総合支援制度①	障害福祉の現状、障害福祉の動向	
22	障害者保険福祉と障害者総合支援制度②	障害者の法的定義	
23	障害者保険福祉と障害者総合支援制度③	障害者福祉の歴史、障害者保健福祉の法律、障害児に対する支援制度	
24	障害者保険福祉と障害者総合支援制度④	障害者総合支援法の目的、市町村・都道府県・国の役割、自立支援給付と地域生活支援事業、財源と利用者負担、障害福祉サービスの種類と内容、利用手続き	
25	障害者保険福祉と障害者総合支援制度⑤	障害者支援区分の認定、協議会・基幹相談支援センター・相談支援事業所等	
26	介護実践に関連する諸制度①個人の権利を守る制度	虐待防止に関する制度、サービス利用に関する制度、消費者保護に関する制度	
27	介護実践に関連する諸制度②保険医療に関する制度	保健医療に関する制度、生活習慣病、結核・感染症、HIV/エイズの予防・対策の制度	
28	介護実践に関連する諸制度③	生活保護法、生活困窮者自立支援法	
29	介護実践に関連する諸制度④	就労支援・雇用促進に関する制度、住生活を支援する制度、自殺を予防する制度	
30	総まとめ・振り返り	後期まとめ、定期考査	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	キャリアデザインⅠ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	石塚 康弘 秋野 泰治		
使用教材	全経簿記能力検定試験基礎簿記会計 テキスト&問題集						
科目概要	介護福祉士として、様々な事務能力の知識を学ぶことでキャリアアップを図り、視野を広げることを狙いとする。また、就職し、将来管理者的立場となった時などを見据えて、経営的感覚を身に付けておくために、最低限の知識としての簿記の初歩を学び、経理の基礎知識を養う。						
到達目標	1.借方、貸方の理解 2.仕訳と元帳の仕組みの理解 3.損益計算書、貸借対照表の作成とその役割の理解						
評価方法 基準	期末に筆記試験を行い、60点以上を合格とし単位認定を行う。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、答案を返却。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 電卓（12ケタ）の用意。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	簿記とは	簿記の考え方、介護福祉士として学ぶ意義 介護職と経理の関わりについて	
2	貸借対照表	資産、負債、純資産のしくみ	
3	損益計算書	収益、費用のしくみ 純利益の出し方	
4	仕訳	仕訳のルールを学ぶ	
5	仕訳帳と元帳①	仕訳帳の記入	
6	仕訳帳と元帳②	総勘定元帳への転記と役割	
7	決算①	試算表の作成	
8	決算②	精算表、損益計算書、貸借対照表の作成	
9	決算③	損益勘定と総勘定元帳の締切	
10	現金と預金	現金、普通預金勘定について	
11	商品売買	分記法、掛取引について	
12	貸付、借入 有形固定資産	貸付金および借入金と利息の処理 土地、備品、建物、車両運搬具勘定について	
13	引出金の処理	資本金の考え方および引出金勘定の役割	
14	費用と収益	費用、収益それぞれの科目の種類について	
15	まとめ	振り返り、定期考査	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	生活表現 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	井上 千帆 茂田井 美絵		
使用教材	実施内容ごとによる（手芸用品、食材、等）						
科目概要	<p>高齢者や障害者のアクティビティ、年代別の流行や郷土料理や菓子、工芸品などに触れ、物作りを体験することで、よりよい生活を表現する手法を学ぶ。</p> <p>また、介護福祉士の実務経験を活かし、高齢者施設等で実施されている行事やアクティビティ活動について講義し、企画・運営ができるよう解説を行う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者や障害児者の生活上の不便さを理解したうえで、楽しく取り組める余暇活動を体験する。 2. 制作意欲を高め、達成感や成果を感じることへの喜びが、生きがいや役割とどのように作用するかを理解できる。 3. 自らの感性や視点から、介護現場等で新たにに取り組めるアクティビティを工夫し、その人に合った生活表現を考案できる。 						
評価方法 基準	制作への取り組みや提出物(作品やレポート)により、総合的に判断し60点以上を得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、課題や制作物の再提出。(学則に準じて評価)。						
成績評価の フィードバック	提出物(作品やレポート)においては随時返却し、評価していく。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>身近な生活にある物や人、季節に応じた行事に対して、常に興味・関心を持ち、介護福祉士としての感性を磨くことでより広い視野を持ち日常生活の支援網力を向上させる。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	アクティビティ体験①	レクリエーション活動に取り入れたい手工芸体験①	
3	アクティビティ体験②	レクリエーション活動に取り入れたい手工芸体験②	
3	お菓子づくり①	洋菓子作り	
4	お菓子づくり①	洋菓子作り	
5	クラブ活動を体験しよう	高齢者・障害者施設におけるクラブ活動体験①	
6	クラブ活動を体験しよう	高齢者・障害者施設におけるクラブ活動体験②	
7	クラブ活動を体験しよう	高齢者・障害者施設におけるクラブ活動体験③	
8	クラブ活動を体験しよう	高齢者・障害者施設におけるクラブ活動体験④	
9	お菓子づくり②	和菓子作り①	
10	お菓子づくり②	和菓子作り②	
11	お茶の作法を体験しよう	お茶(緑茶・紅茶)の入れ方、出し方、その作法	
12	高齢者・障害者施設での行事体験	お誕生日会の企画・運営①	
13	高齢者・障害者施設での行事体験	お誕生日会の企画・運営②	
14	高齢者・障害者施設での行事体験	季節の行事の企画・運営①	
15	高齢者・障害者施設での行事体験	季節の行事の企画・運営②	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	実技	
開講学科	介護福祉学科				配当時間	30	対象年次	1年
科目名	エクササイズ <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				担当者	柏瀬 健一		
使用教材	なし							
科目概要	保健体育教師としての実務経験を活かし、さまざまな運動・スポーツの実技を通して、心身の健康で調和的な発達を促し、健康とスポーツの自主的、主体的な実践力を育成する。また、健康とスポーツについて理解を深め、社会的、文化的価値について理解を深めるとともに、仲間とのコミュニケーションを深めていく。							
到達目標	1 運動やスポーツの楽しさや喜びを味わわせることができるようにするとともに、自らコミュニケーションをとって意欲的に活動することができる。 2 生涯にわたって健康の保持増進のための自己管理能力を身に付けるとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。							
評価方法 基準	授業中の意欲・関心・態度 ②技能 ③思考・判断 ④出席状況の4観点を総合的に評価する。 評価基準・・・80点以上→A、79～70点→B、69～60点→C、60点以下は科の判断にてレポート及び補習実技にて認定する。							
成績評価の フィードバック	評価は担任を通じて伝達する。							
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	体育実技（知識）①	オリエンテーション・体づくり運動Ⅰ	自動車学校体育館
2	体育実技（球技）①	ゲートボールⅠ	太田市ゲートボール場
3	体育実技（球技）②	ゲートボールⅡ	太田市ゲートボール場
4	体育実技（球技）③	ゲートボールⅢ	太田市ゲートボール場
5	体育実技（球技）④	ゲートボールⅣ	太田市ゲートボール場
6	体育実技（球技）⑤	ゲートボールⅤ	太田市ゲートボール場
7	体育実技（球技）⑥	ゲートボールⅥ	太田市ゲートボール場
8	体育実技（球技）⑦	グランドゴルフⅠ	新グランド
9	体育実技（球技）⑧	グランドゴルフⅠ	新グランド
10	体育実技（球技）⑨	グランドゴルフⅡ	新グランド
11	体育実技（球技）⑩	グランドゴルフⅡ	新グランド
12	体育実技（球技）⑪	グランドゴルフⅢ	新グランド
13	体育実技（球技）⑫	グランドゴルフⅢ	新グランド
14	体育実技（球技）⑬	グランドゴルフⅣ	新グランド
15	体育実技（球技）⑭	グランドゴルフⅣ	新グランド

履修区分	必修	単位数	8	開講時期	通年	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	120	対象年次	1
科目名	介護の基本Ⅰ（介護系） <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	茂田井 美絵 井上 千帆 非常勤講師		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」第2版 最新・介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」第2版(中央法規出版)						
科目概要	<p>1.介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。</p> <p>2.介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。</p> <p>3.各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。</p> <p>4.介護福祉士としての実務経験を活かし、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、介護を必要とする人の尊厳を守り自立支援のあり方、介護福祉職としての職業的倫理などを講義する。</p>						
到達目標	<p>1.複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。</p> <p>2.地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する。</p> <p>3.介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成を習得する。</p> <p>4.介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解できる。</p> <p>5.介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できる。</p> <p>6.介護サービスの概要が説明できる。</p> <p>7.他職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を習得する。</p>						
評価方法 基準	<p>期末に筆記試験を実施、各単元の小テストや提出物・授業の取り組み姿勢を、それぞれ90%・10%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施（学則に準じて評価）。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>専門用語・漢字テスト・試験の採点后、答案を返却する。理解が不十分な点については、各自復習や課題の履修において理解を深める。不合格者については、個別対応とする。</p>						
事前準備	<p><input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 専門用語・漢字テストや国試過去問の実施するため、再復習を望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス	「介護の基本」で学ぶべきこと、介護とは「介護」の誕生と「介護」の意味	
2	介護福祉士の基本となる理念	介護の成り立ち、介護福祉を取り巻く状況 演習：介護サービスと家族介護のバランス	
3	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の歴史①～老人福祉法の制定にいたるまでの社会福祉政策、1970年代 - 1980年代～	
4	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の歴史② 1990年代、2000年以降	
5	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の歴史③ 介護保険法について	
6	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の基本理念①	
7	介護福祉士の基本となる理念	介護福祉の基本理念② [演習] 尊厳を支える介護、自己決定権	
8	介護福祉士の役割と機能	社会福祉及び介護福祉士法、社会福祉士法及び介護福祉士法に関連する諸規定	
9	介護福祉士の役割と機能	社会福祉及び介護福祉士法、社会福祉士法及び介護福祉士法に関連する諸規定	
10	介護福祉士の役割と機能	[演習] 心身の状況に応じた介護を考える、介護福祉士の義務規定	
11	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割①	
12	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割②	
13	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割③	
14	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の活動の場と役割④	
15	前期まとめ	定期考査・振り返り	

回	単元	内容	備考
16	前期復習	介護福祉の基本となる理念、介護保険のしくみとその概要	
17	介護福祉士の役割と機能	[演習] 介護福祉士の活動する場と役割	
18	介護福祉士の役割と機能	[演習] 災害時の支援	
19	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士に求められる役割とその養成	
20	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士に求められる役割とその養成	
21	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士を支える団体①	
22	介護福祉士の役割と機能	介護福祉士を支える団体②	
23	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理①	
24	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理②	
25	介護福祉士の倫理	[演習] 倫理的対応が必要な事例①	
26	介護福祉士の倫理	[演習] 倫理的対応が必要な事例②	
27	介護福祉士の倫理	日本介護福祉士会の倫理綱領①	
28	介護福祉士の倫理	日本介護福祉士会の倫理綱領②	
29	後期まとめ	国家試験過去問題に取り組み学習の振り返りを行う	
30	総まとめ	定期考査・振り返り	

回	単元	内容	備考
31	ガイダンス	介護の基本で学ぶこと、介護福祉を必要とする人とは、どのような人がいるのか	
32	介護福祉を必要とする人の理解	私たちの生活の理解	
33	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人の暮らし①	
34	介護福祉を必要とする人の理解	介護福祉を必要とする人の暮らし②	
35	介護福祉を必要とする人の理解	[演習] 介護福祉を必要とする人の暮らし	
36	介護福祉を必要とする人の理解	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	
37	介護福祉を必要とする人の理解	生活のしづらさの理解とその支援①	
38	介護福祉を必要とする人の理解	生活のしづらさの理解とその支援②	
39	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活を支えるフォーマルサービス(社会的サービス)とは	
40	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	[演習] 生活を支えるフォーマルサービス(社会的サービス)とは	
41	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活を支えるインフォーマルサービス(私的サービス)とは	
42	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	[演習] 生活を支えるインフォーマルサービス(私的サービス)とは	
43	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	[演習] 地域の社会資源について考える	
44	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	地域連携	
45	前期まとめ	定期考査・振り返り	

回	単元	内容	備考
46	前期復習	前期に習得した内容を振り返る	
47	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働の必要性	
48	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	
49	協働する多職種の機能と役割	[演習] チームに備わっているべき要素について	
50	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能①	
51	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能②	
52	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能③	
53	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能④	
54	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能⑤	
55	協働する多職種の機能と役割	保健・医療・福祉職の役割と機能⑥	
56	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働の実際①	
57	協働する多職種の機能と役割	多職種連携・協働の実際②	
58	協働する多職種の機能と役割	[演習] ケースカンファレンスの実際	
59	後期まとめ	国家試験過去問題を実施し学習内容を振り返る	
60	総まとめ	定期考査・振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	介護の基本Ⅰ（介護系） <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	井上 千帆		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」第2版(中央法規出版)						
科目概要	<p>1.介護における安全の確保とリスクマネジメント、及び事故予防や安全への対策、感染対策の講義と演習を行う。</p> <p>2.介護事故における危険予知（ヒヤリハット）について事例を用い、安全対策の視点と感染対策における予防を考える。また、介護職の心身の健康管理について、介護職のセルフケアやその予防的取り組みについてグループワークで討議を行う。</p> <p>3.介護福祉士の実務経験を活かし、介護実践におけるリスクマネジメント、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理論的に講義する。</p>						
到達目標	<p>1.介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できる。</p> <p>2.介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働管理や労働環境の管理について理解できる。</p>						
評価方法 基準	<p>期末に筆記試験を実施、各単元の小テストや提出物・授業の取り組み姿勢を、それぞれ90%・10%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施（学則に準じて評価）。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>答案を返却し、理解が不十分な部分については、各自復習をしておくこと。</p>						
事前準備	<p><input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり</p> <p>各授業において、テキストの演習問題や国家試験に出題される内容を確認テストにより実施するため、事前学習をしておくこと。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント①	介護福祉士の責務と安全の確保 リスクマネジメントとは何か	
2	介護における安全の確保とリスクマネジメント②	過誤・事故・苦情とは、苦情解決制度 身体拘束について	
3	リスクマネジメントと組織体制	[演習]ヒヤリ・ハット報告書、事故報告書	
4	事故防止のための対策	事故直後の対応、生活の場の安全管理 非常災害時の対策	
5	感染症対策①	介護福祉職に必要な感染に関する知識 標準予防策とは	
6	感染症対策②	[演習]手洗い、 手袋・マスク・ガウンのつけ方・はずし方	
7	感染症対策③	感染症発生時の対応	
8	感染症対策④	個別の感染症対策	
9	安全な医療行為を支える視点	医療行為と服薬管理に関する視点と連携	
10	介護従事者の安全①	健康管理の意義と目的 働く人の健康や生活を守る法制度	
11	介護従事者の安全②	こころの健康管理 [演習]ストレス・セルフチェック	
12	介護従事者の安全③	身体の健康管理 [演習]腰痛予防体操	
13	介護従事者の安全④	労働環境の整備	
14	労働環境の整備	[演習]危険予知トレーニング	
15	まとめ	振り返り・定期考査	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	介護の基本Ⅱ（リハビリ）			担当者	宮澤 満		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」第2版(中央法規出版) 本校作成プリント						
科目概要	<p>1.高齢者や障害児・者に対する介護を提供する上で、リハビリテーションの観点から、他職種との連携、機能と役割、特有の疾患に対する理解を深める。</p> <p>2.介護従事者の安全の確保、リスクマネジメントを学習する。</p> <p>3.理学療法士の実務経験を活かし、高齢者や障害児・者に対する介護を提供する上で、リハビリテーションの観点から、他職種との連携、機能と役割、特有の疾患に対する理解を深める。また介護従事者の安全の確保、リスクマネジメントの知識を講義する。</p>						
到達目標	<p>1. リハビリテーションの概念や知識・技術、ICFの考え方を理解できる。</p> <p>2. コミュニケーション、基本的な身体の仕組みとはたらきを理解できる。</p> <p>3. 体位変換、車椅子介助、歩行介助など移動・移乗の介護技術を理解できる。</p> <p>4. 老化に伴う身体機能の変化、高齢者特有の疾患を理解できる。</p> <p>5. リスク管理や感染対策、標準予防策について理解できる。</p>						
評価方法 基準	前期の期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については、学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	試験の採点后、答案は返却しない。また、担任を通して成績を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 基本的な介護知識・技術、老化や高齢者に多い疾患等を再復習しておくことを望む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	リハビリテーション概論 コミュニケーション	リハビリテーションの定義 コミュニケーション技法	
2	リスク管理 ①	リスクマネジメント ヒヤリハット報告	
3	人体の構造 ①	関節の基本構造 肩甲帯の基礎知識	
4	人体の構造 ②	上肢の基礎知識	
5	人体の構造 ③	下肢の基礎知識	
6	人体の構造 ④	体幹の基礎知識	
7	自立に向けた移動の介助	歩行のための福祉用具（種類・使用法） 介助法（歩行・階段昇降）	
8	自立に向けた介護	ICFの基本知識とICIDHの違い、自立を支援するための介護予防、リハビリテーションの意義	
9	ADLとIADL	ADLとIADLの基本知識・違い 評価法	
10	体位変換	ボディメカニクス	
11	老化に伴うからだの変化	高齢者の疾患の特徴	
12	認知症	症状の特徴 検査・治療の実際	
13	障害の基礎的知識 ①	身体障害	
14	障害の基礎的知識 ②	難病	
15	リスク管理 ②	感染症対策・標準予防策	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義・演習	
開講学科	介護福祉学科				配当時間	60	対象年次	1
科目名	コミュニケーション技術 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				担当者	茂田井 美絵(18) 茂木 勤(4) 山本・松本 (6)		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」第2版 (中央法規出版)、「聴さんと学ぼう！」(一般財団法人聴覚障害者連盟)							
科目概要	<p>1.対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うための知識の習得や演習において実践に活かす。</p> <p>2.手話や点字に触れることで様々なコミュニケーション能力を身につけ、視野を広げる。</p> <p>3.介護福祉士の実務経験を活かし、基本的な技術を活用した信頼関係の構築、及び障害の特性に応じたコミュニケーション方法のスキルについて講義する。また、介護現場で実践されているチームにおける情報共有、活用、管理方法について解説する。</p>							
到達目標	<p>1.本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得できる。</p> <p>2.さまざまなコミュニケーションの技法を理解し、利用者の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を習得できる。</p> <p>3.家族の状況に合わせた支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。</p> <p>4.介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解し、情報の共有化のための具体的な方法や管理について理解できる。</p> <p>5.視覚・聴覚障害者の特徴を学び、援助方法を学ぶ。</p> <p>6.手話を学び、会話技法を習得する。</p>							
評価方法 基準	<p>期末に筆記試験を行う(点字については実施なし)。また、授業への取り組み姿勢を点数化し、筆記試験の得点に加点する。前期は、平常点・筆記試験：70点、手話：30点とし、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。後期については、平常点・筆記試験：80点、点字：20点とする。評価基準については学科の規定による。</p>							
成績評価の フィードバック	<p>授業前に、前回の復習テストを実施し、授業内容の習熟度を確認する。自己採点しテキストの該当箇所の確認を行う。テストは返却し、再度自己学習の課題とする。</p>							
事前準備	<p><input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり</p> <p>他者とのコミュニケーションを目的とし、開かれた姿勢で授業に取り組むことを望む。</p>							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コミュニケーションとは	ガイダンス、アイスブレイクの手法 コミュニケーションの基本	
2	介護におけるコミュニケーションの基本①	介護におけるコミュニケーションとは マズローの欲求段階説とコミュニケーション	
3	介護におけるコミュニケーションの基本②	介護におけるコミュニケーションの対象 援助関係とコミュニケーション	
4	コミュニケーションの基本技術①	コミュニケーション態度に関する基本技術 言語・非言語・準言語コミュニケーション	
5	コミュニケーションの基本技術②	目的別のコミュニケーション モチベーション理論、リフレーミング	
6	コミュニケーションの基本技術③	集団におけるコミュニケーション技術	
7	対象者の特性に応じたコミュニケーション①	コミュニケーション障害への対応の基本 視覚障害・聴覚障害がある人への支援	
8	対象者の特性に応じたコミュニケーション②	構音障害・失語症がある人への支援 まとめ 振り返り	
9	手話演習①	ガイダンス「聴覚障害者と手話について」 〈演習〉手話の基本、あいさつ、自己紹介	
10	手話演習②	〈演習〉家族、趣味、誕生日、年齢、仕事	
11	手話演習③	〈演習〉DVD視聴「私の大切な家族」	
12	手話演習④	〈演習〉住所、天気、乗り物、買い物	
13	手話演習⑤	〈演習〉お金、災害、自己紹介まとめ	
14	手話演習⑥	〈交流会〉手話を使って話してみよう 〈演習〉まとめ	
15	前期期末考査	前期期末考査	

回	単元	内容	備考
16	対象者の特性に応じたコミュニケーション③	認知症状がある人への支援	
17	対象者の特性に応じたコミュニケーション④	精神疾患の方への支援 知的障害のある人への支援	
18	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑤	発達障害のある人への支援 高次脳機能障害のある人への支援	
19	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑥	重度心身障害のある人への支援 〈演習〉非言語コミュニケーションの応用	
20	介護における家族とのコミュニケーション	家族との関係づくり、家族への助言・指導・調整、家族関係と介護ストレスへの対応	
21	介護におけるチームのコミュニケーション①	チームのコミュニケーションとは	
22	介護におけるチームのコミュニケーション②	報告・連絡・相談の技術	
23	介護におけるチームのコミュニケーション③	記録の技術 〈演習〉介護記録の書き方	
24	介護におけるチームのコミュニケーション④	会議・議事進行・説明の技術	
25	介護におけるチームのコミュニケーション⑤	事例検討に関する技術 情報の活用と管理のための技術 総まとめ	
26	視覚障害者福祉について	視覚障害者への理解（概念） 点字（50音、数字、仮名遣い、表記）	
27	視覚障害者福祉について	視覚障害者への理解（社会参加と社会生活） 点字(分かち書き、質問を点字で書く)	
28	視覚障害者福祉について 視覚障害者の生活の理解(移動)	視覚障害者と介護者との共生社会について 行動の不自由さの理解	
29	視覚障害者とのコミュニケーション 日常生活の理解	言葉によるコミュニケーションの仕方 日常生活における不自由さの説明 白杖について、点字復習	
30	後期期末考査	後期期末考査	

履修区分	必修	単位数	12	開講時期	通年	形態	講義・演習
開講学科	介護福祉学科			配当時間	180	対象年次	1
科目名	生活支援技術Ⅰ(介護)			担当者	茂田井 美絵 井上 千帆 宮澤 満		
	☐ 実務経験のある教員による授業						
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」第2版(中央法規出版) 最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」第2版(中央法規出版)						
科目概要	<p>1.介護を実践する対象・場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術を習得する。</p> <p>2.尊厳の保持や自立支援、生活の豊さの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術の習得を行う。</p> <p>3.ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた日常生活動作、その他の生活場面について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>4.介護福祉士の実務経験を活かし、尊厳の保持や自立支援、対象者の潜在能力を引き出す支援方法、安全な介護技術の提供、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術について演習及び解説を行う。また、学んだ知識と技術の統合を図り、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。</p>						
到達目標	<p>1.ICFの視点を生活支援に活かすことの意識を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援にどうつなげるかを理解する。</p> <p>2.対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。</p> <p>3.健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援ができる。</p> <p>4.人生の最終段階における人とチームケアの実践について習得する。</p> <p>5.介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに対象者の魅力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。</p>						
評価方法 基準	毎回のレポート提出・授業への取組み姿勢、各期末における実技試験・筆記試験を実施し、それぞれ10%・40%・50%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施(学則に準じて評価)。						
成績評価の フィードバック	レポートの採点后、返却する。理解が不十分な点については、各自復習や課題の履修において理解を深める。不合格者については、個別対応とする。						
事前準備	<p>☐ なし</p> <p>☑ あり</p> <p>介護技術の再確認、及び国家試験に出題される内容を事前学習しておく。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	[講義] ガイダンス 基本となる介護技術とは	生活支援の基本的な考え方、生活支援技術の意味、演習について	
2	[講義] 生活支援の理解①	生活支援の基本的な考え方 生活支援と介護過程	
3	[講義] 生活支援の理解②	生活支援とチームアプローチ	
4	[講義]自立に向けた移乗・ 移動の介護	ボディメカニクスとは 自立した移動とは、移動・移乗の基本的理解	
5	[演習] 自立に向けた移動の介護	起居動作(寝返り) -上方移動・水平移動、仰臥位から側臥位の介助-	
6	[演習] 自立に向けた移動の介護	起居動作(起き上がり) -起き上がりから端座位への介助-	
7	[講義・演習] 自立に向けた移動の介護	安楽な姿勢・体位を保持する介助 -その目的と褥瘡予防・ポジショニング- -仰臥位・側臥位・半座位・起座位-	
8	[講義・演習] 自立に向けた移動の介護	歩行の介助① -歩行介助のポイント、歩行のための用具-	
9	[講義・演習] 自立に向けた移動の介護	歩行の介助② -2動作歩行・3動作歩行-	
10	[講義] 自立に向けた移動の介護	歩行の介助② -障害物超え、階段の昇降-	
11	[演習] 自立に向けた移動の介護	車いす(移乗・移動)の介助① 車いすの基本的な使い方、移乗の介助	
12	[演習] 自立に向けた移動の介護	車いす(移乗・移動)の介助②-福祉用具を使用した車いすとベッド間の移乗の介助の留意点	
13	[演習] 自立に向けた移乗の介護	車いす(移乗・移動)の介助③ -ベッド⇔車いすへの移乗介助(一部介助)	
14	[講義] 自立に向けた移乗の介護	車いす(移乗・移動)の介助④ -ベッド⇔車いすへの移乗介助(一部介助)	
15	[演習] 自立に向けた移乗の介護	車いす(移乗・移動)の介助⑤ -ベッド⇔車いすへの移乗介助(全介助)	

回	単元	内容	備考
16	[演習] 自立に向けた移動の介護	車いすにおける移動の介護、車いす操作における注意点 車いすでの移動介助 -平面移動、段差の昇降、坂道での移動介助、砂利道での移動介助-	
17	[演習] 自立に向けた移動の介護	移動の介護における多職種との連携	
18	【単元末考査】 移乗・移動に関するまとめ	振り返り、筆記試験・実技試験	
19	[演習]高齢者施設等で活用されている移乗の介護技術	移乗における福祉用具の活用、持ち上げない介護技術とは	
21	[講義] 生活支援の理解①	生活支援の基本的な考え方	
21	[講義] 生活支援の理解①	生活支援と介護過程	
22	[講義] 生活支援の理解②	生活支援とームアプローチ	
23	[講義] 休息・睡眠の介護	休息・睡眠とは 室内環境の調整	
24	[演習] 休息・睡眠の介護	ベッドメイキング、寝具のたたみ方	
25	[演習] 休息・睡眠の介護	三角コーナー・四角コーナー作り方 横シーツのさばき方	
26	[演習] 休息・睡眠の介護	シーツ交換	
27	[演習] 休息・睡眠の介護	包布のかけ方、特殊寝台と付属用具	
28	[講義] 休息・睡眠の介護	睡眠障害とその支援 休息・睡眠の介護における多職種との連携	
29	【単元末考査】 休息・睡眠の介護のまとめ	睡眠に関する実技試験	
30	[講義] 自立に向けた身じたくの介護	自立した身じたくとは 利用者の状況に応じた身じたくの介助	

回	単元	内容	備考
31	[演習] 衣類着脱の介助の実際	自立度が高い利用者への介助	
32	[演習] 衣類着脱の介助の実際	片麻痺を有する人への介助	
33	[演習] 衣類着脱の介助の実際	かぶり上衣の場合	
34	[演習] 衣類着脱の介助の実際	臥位で行う介助、全介助の場合	
35	[演習] 衣類着脱の介助の実際	浴衣の着脱	
36	[講義] 衣類着脱での福祉用具	衣類着脱に活用する自助具について	
37	[演習] 整容の介助	洗顔の介助、整髪の介助 ひげの手入れの介助	
38	[演習] 整容の介助	爪の手入れの介助、耳の手入れの介助、お化粧	
39	[講義] 口腔ケア	口腔ケアとは 口腔ケアを実施する前に必要な知識と技術	
40	[講義] 口腔ケア	口腔ケア実施時の留意点 義歯の種類と掃除法	
41	[演習] 口腔ケア①	歯みがきの介助の実際 義歯洗浄	
42	[演習] 口腔ケア②	歯みがきの介助の実際 義歯洗浄	
43	前期のまとめ	筆記試験・実技試験について	
44	前期のまとめ	前期期末考査 -筆記試験-	
45	前期のまとめ	前期期末考査 -実技試験-	

回	単元	内容	備考
46	前期振り返り	口腔ケアについて	
47	[演習] 口腔ケア	歯みがきの介助の実際 義歯洗浄	
48	[演習] 口腔ケア	歯科衛生士からみた介護福祉職に求める口腔 ケア①	
49	[演習] 口腔ケア	歯科衛生士からみた介護福祉職に求める口腔 ケア②	
50	【単元末考査】 身じたくの介護のまとめ	身じたくに関する考査、実技試験	
51	[講義] 自立に向けた食事の介護	自立した食事とは 食事の介助を行うにあたって	
52	[講義] 自立に向けた食事の介護	介護の基本原則に則った食事の介助 利用者の状態に応じた食事の介助	
53	[演習] 自立に向けた食事の介護	食卓で行う食事の介助(一部介助・全介助)	
54	[演習] 自立に向けた食事の介護	ベッド上で行う食事の介助(全介助)	
55	[演習] 自立に向けた食事の介護	誤嚥の予防のための支援	
56	[講義] 自立に向けた食事の介護	食事の介護における多職種との連携	
57	[講義] 自立に向けた入 浴・清潔保持の介護	自立した入浴・清潔保持とは 入浴の介助、入浴のための道具・用具	
58	[講義] 清潔保持の介助	全身清拭・部分清拭の手順	
59	[演習] 清潔保持の介助	全身清拭・部分清拭の介助	
60	[演習] 入浴の介助	個浴での介助、特殊浴槽を使用しての入浴	

回	単元	内容	備考
61	[演習] 入浴の介助・洗髪 <small>の</small> 介助	シャワー浴 ケリーパッドを用いた洗髪	
62	[演習] 清潔保持 <small>の</small> 介助	手浴・足浴	
63	[講義] 自立に向けた入浴・清潔保持 <small>の</small> 介護	入浴・清潔保持 <small>の</small> 介護における多職種との連携	
64	[講義] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	自立した排泄とは 排泄に関連した道具・用具	
65	[講義] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	排泄方法の選択 自己導尿、ストーマ、その他の排泄介助	
66	[演習] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	トイレでの排泄 <small>の</small> 介助方法① -歩行ができる場合、プラットホーム式トイレ	
67	[演習] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	トイレでの排泄 <small>の</small> 介助方法② -車いすでの介助	
68	[演習] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	ポータブルトイレでの排泄 <small>の</small> 介助方法 立位での尿とりパッド交換 <small>の</small> 介助	
69	[演習] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	便器・差し込み便器での排泄 <small>の</small> 介助	
70	[演習] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	おむつでの排泄 <small>の</small> 介助① -ベッド上でのおむつ交換 <small>の</small> 介助	
71	[演習] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	おむつでの排泄 <small>の</small> 介助② -陰部清拭と陰部洗浄	
72	[演習] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	おむつでの排泄 <small>の</small> 介助③ -おむつ・パッドの種類、布おむつ <small>の</small> 装着	
73	[講義] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	排泄に関する障害の種類と対応	
74	[講義] 自立に向けた排泄 <small>の</small> 介護	排泄 <small>の</small> 介護における多職種との連携	
75	[講義] 災害時における生活支援	災害時における介護福祉職 <small>の</small> 役割	

回	単元	内容	備考
76	[講義・演習] 災害時における生活支援	災害時における生活支援の実際 [演習]防災に関する図記号・ピクトグラム	
77	[講義] 権利擁護のための相談窓口や制度①	国民生活センター、消費生活センター クーリングオフ制度	
78	[講義] 権利擁護のための相談窓口や制度②	成年後見制度	
79	[講義] 権利擁護のための相談窓口や制度③	日常生活自立支援事業	
80	[講義] 人生の最終段階における介護	人生の最終段階の意義と介護の役割	
81	[講義・演習] 人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護、人生の最終段階における介護における多職種との連携	
82	事例に基づく実践	事例検討 根拠に基づいた実践①	
83	事例に基づく実践	事例検討 根拠に基づいた実践②	
84	事例に基づく実践	事例検討 根拠に基づいた実践③	
85	事例に基づく実践	事例検討 根拠に基づいた実践④	
86	事例に基づく実践	事例検討 根拠に基づいた実践⑤	
87	生活支援技術に関する知識のまとめ	知識のまとめ・振り返り①	
88	生活支援技術に関する知識のまとめ	知識のまとめ・振り返り②	
89	期末考査	後期期末考査 -実技試験-	
90	期末考査	後期期末考査 -筆記試験-	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	実技
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2年
科目名	生活支援技術Ⅱ（リハビリ）			担当者	宮澤 満		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版） 教員作成の資料・プリント						
科目概要	理学療法士の実務経験を活かし、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための手順や注意点等を解説し、その手順により正しい技能を習得する訓練を行う。また高齢者や障害児・者の介護を必要としている方に対し、座学で学んだ知識をリハビリテーションの観点を活かした技術の実践により理解を深め、介護技術に応用できるよう訓練を行う。						
到達目標	1. ICFの視点を生活支援に活かすことの意識を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援にどうつなげるかを理解する。 2. 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 3. 介護におけるリハビリテーションの意義が理解できる。 4. 介護時におけるリスク管理が理解できる。 5. 各体位における正しいポジショニングができる。 6. 安全で快適な体位変換、移動、移乗、移送、歩行・階段昇降介助ができる。 7. 身体を理解し適切な検査・測定や訓練を安全に行うことができる。						
評価方法 基準	前期末に実技試験を行う。実技試験の内容を点数化し、60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
成績評価の フィードバック	実技試験の採点后、各学生に対し試験内容に対する総評を行う。また、担任を通して成績を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 基本的な解剖学・生理学的知識、介護知識・技術等を再復習しておくことを望む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	血圧測定実習	血圧測定の基礎知識 血圧測定の実践	
2	四肢の検査・測定	四肢長・四肢周径・関節可動域・筋力 他	
3	体位変換	ボディメカニクスを応用した体位変換の 実践	
4	動作における介助量	起居動作・起立 など	
5	ポジショニング	良肢位とは 体位の種類	
6	移乗動作	車椅子・ベッド間の移乗	
7	車椅子移送	坂・段差昇降	
8	自立に向けた移動の介護	杖の調整 歩行介助・階段昇降介助	
9	関節可動域運動	四肢可動域の基礎知識・実践	
10	義肢・装具・物理療法	義肢・装具の基礎知識・実践、温熱療法 他	
11	バランス評価	TUG・FR-T 他	
12	筋力増強訓練 ①	チューブトレーニング	
13	筋力増強訓練 ②	レッドコード ①	
14	筋力増強訓練 ③	レッドコード ②	
15	期末試験	課題に対する実技試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義・演習
開講学科	介護福祉学科				配当時間	60	対象年次 1
科目名	生活支援技術Ⅲ (栄養・調理・被服) <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」第2版 新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」(中央法規出版)						
科目概要	<p>1.生命維持に必要な「食」から、生活の楽しみ「食」への理解を深める。介護福祉士として「食」の支援をするうえで、必要な基礎知識を取り扱う。</p> <p>2.食文化や食生活の変化をはじめ、介護福祉士が「食」の支援をするうえで必要な基本的技術を学ぶ。</p> <p>3.家事の重要性とともに、好みを尊重した支援を行うための視点や基本的技術を学ぶ。また、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者主体の生活ができるよう知識や技術の習得を行う。</p> <p>4.高齢者施設における管理栄養士としての経験、及び家政学教員の実務経験を活かし、介護福祉職が必要な高齢者や障害者に配慮した食生活や家事支援についての確かな知識と技能を習得する訓練を行う。</p>						
到達目標	<p>1.食事(食品)に含まれる栄養素の知識や役割を習得し、施設、及び在宅に関わらず介護を必要とする人の食生活を支えることができる基本的知識を身に付ける。</p> <p>2.「栄養」「調理」の知識、病態と食事の関係、要介護者の食生活の知識や技術を活用する。そのうえで、「調理」の実際や「嚥下」の体験を通じて、健常者との相違点、食べることの大切さを実践的に学ぶ。また、高齢者や障害者への実際の介助方法や調理法などを、具体的に提案し援助ができる。</p> <p>3.生活の継続性を支援する観点から、利用者の心身の状況に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基本的な知識・技術を習得できる。</p> <p>4.介護福祉職における家事支援の実際を実践できる。</p>						
評価方法 基準	各単元の小テスト、期末に筆記試験を実施する。授業の取り組み姿勢、グループワークの評価を点数化して、筆記試験結果に加減する。演習への取り組み姿勢、班別・個人別の献立作成や調理ノートの添削、調理技術、被服に関する課題作品を点数化する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する(学則に準じて評価)。						
成績評価の フィードバック	提出物の添削後、留意点や重要部分について解説し知識を深める。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高校で学習した栄養について、再復習しておく。家庭での食事や調理に興味を持ち、「食」についての関心を深める。 ・家庭における調理や買い物の実験を体験しておく。 ・「家事支援」とはなにか理解を深めておく、介護福祉職としての施設における「家事支援」について考察しておくことを望む。 						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 食生活の変化	介護福祉職が栄養と調理を学ぶ意義 食文化と食生活変化	
2	栄養素総論	食品の分類、6つの基礎食品群	
3	栄養素各論	各栄養素の構成・作用・分離・代謝 含有食品①	
4	栄養素各論	各栄養素の構成・作用・分離・代謝 含有食品②	
5	食品の調理性と調理の基本 衛生管理	各食品の調理性、加熱・非加熱調理法 食中毒の分類、原因・予防・保存	
6	献立作成方法と食品購入、 選択	献立の立て方と食品の選び方 食事バランスガイドを活用した献立作り①	
7	献立作成方法と食品購入、 選択	食事バランスガイドを活用した献立作り②	
8	高齢者と障害者の栄養	食品、及び調理の配慮、低栄養の評価 嚥下障害とは、嚥下障害者への食事の配慮	
9	特殊栄養(疾病と食事)、 調理の支援	高齢者に多い疾病の食事、訪問及び施設の 調理法	
10	「栄養」に関する まとめ	まとめ、振り返り	
11	調理に関するガイダンス 飲み込みやすい調理形態	調理室の利用と衛生管理 嚥下調理学会分類2013について (食事形態・とろみ)	
12	飲み込みやすい調理形態 (演習)	段階毎の献立作成 (各自・各班：10分程度)	
13	嚥下調整食 各段階的献立作成	常食から嚥下困難食への展開食、献立作成	
14	基本的な調理①	調理を行う際の諸注意、包丁の使い方	
15	基本的な調理②	カレー作成	

回	単元	内容	備考
16	嚥下困難者の水分 寒天とゼラチンの相違	とろみの付け方、寒天とゼラチンを作成、 テクスチャーの相違点	
17	摂食・嚥下調整食	献立作成 (野菜食・刻み食・ミキサー食・ソフト食)	
18	お粥のいろいろ 摂食・嚥下調整食	全粥～3分粥までを作成 各段階の嚥下調整食を調理、相違確認	
19	高齢者・障害者の食事	片麻痺者における自助具を活用した摂食体験	
20	摂食・嚥下調整食③ 「調理」まとめ	②の献立から選択し、班別に3段階の食事を 調理し作成、皮むき確認テスト	
21	自立に向けた家事の支援	自立生活を支える家事、介護保険との関連 専門職としての自立に向けた家事の介護	
22	洗濯の意義	洗濯の仕方と進め方、洗濯マーク	
23	被服生活の基礎知識①	被服の機能、被服を取りまく変化、 被服の管理	
24	被服生活の基礎知識②	被服の洗濯、洗剤の種類	
25	被服生活の基礎知識③	漂白実習（蛍光増白剤と違い） シミの取り方実習	
26	被服生活の基礎知識④	洗濯実践、アイロン掛け実習	
27	被服生活の基礎知識⑤ (演習)	衣類の補修のプロセス	
28	被服生活の基礎知識⑥ (演習)	裁縫-衣類の補修	
29	衛生管理と整理整頓	自立支援に基づいた掃除の支援 衣類の管理方法、防虫剤、カビの予防方法	
30	「被服」に関する まとめ	家事に関する I C F の構成要素と観察ポイント、 まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	生活支援技術Ⅳ（住居） <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	井上 千帆		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」第2版(中央法規出版)、本校作成プリント						
科目概要	<p>1. 尊厳の保持や自立支援、生活の豊さの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術の習得を行う。</p> <p>2. 生活の理解と生活支援の目的、居住環境の整備について理解し、高齢者や障害児・者の安全で安心な環境作りの知識を身に付ける。</p> <p>3. 福祉住環境コーディネーター、及び介護福祉士、介護支援専門員の実務経験を活かし、実践的環境整備の事例と自立支援のための住環境の整備について解説する。</p>						
到達目標	<p>1. 住まいの多様性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基本的知識を理解できる。</p> <p>2. 高齢者や障害児・者に対して、住みやすい住環境を提案できるように福祉住環境コーディネーター3級に準じた知識の習得と、目指せる資格として検定の受験も視野に入れる。</p> <p>3. 住環境整備にかかわる職種とその役割について学ぶ。</p>						
評価方法 基準	課題レポートの提出、授業に対する取組み姿勢、及び出席率を点数化し、総合的に判断する。判断基準は、それぞれ60%、30%、10%とし、総合的に60点以上を合格とし、単位を認定する(学則に準じて評価)。						
成績評価の フィードバック	課題を返却し、不十分なところは、見直しておくこと。検定については、介護福祉士として活かせる資格となるため、挑戦して欲しい。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 住環境については、自宅はもちろん実習先において、間取りやデザイン、高齢者や障害児・者にとって住みやすい住環境なのか考えておくことが重要であるため、いろいろなパターンを見学しておくこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	住まいの役割と機能 自立に向けた居住環境の整備	福祉住環境コーディネーター検定について 日本の住宅における特徴、起居様式、生活空間、自立に向けた居住環境の整備	
2	建築に関する用語と法律	建築基準法とは、住宅品確法について 段差に関する整備の技術	
3	建築の基礎知識	住環境整備の意義と目的、床材、手すり、幅、 スペースに関する整備の技術	
4	加齢と生活空間	生活行為別にみる住まい① 寝室、トイレ、浴室	
5	加齢と生活空間	生活行為別にみる住まい② 洗面脱衣室、台所、居間・食事室	
6	加齢と生活空間	生活行為別にみる住まい③ 廊下、階段、移動に関する有効幅員	
7	快適な室内環境	生活環境と室内環境、明るさ、照明、音、 住まいの維持・管理	
8	安全に暮らすための生活環境	日常安全、家庭内事故の現状 日本家屋の問題点	
9	安全に暮らすための生活環境	日常安全のための対応策	
10	安全に暮らすための生活環境	介護保険における住宅改修制度 災害に対する備え	
11	これからの住居環境の整備 について	安心できる住生活とまちづくり 住まいの多様化やバリアフリー化、住宅施策	
12	これからの住居環境の整備 について	ユニバーサルデザイン	
13	福祉用具の意義と活用	生活を支える福祉用具、公的制度上での福祉用具、 介護ロボットと福祉用具の意義	
14	居住環境の整備における多 職種との連携	多職種連携の必要性、住環境整備に関する 専門職種、事例問題	
15	まとめ	まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	1
科目名	介護過程 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	井上 千帆 茂田井 美絵		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」第2版(中央法規出版)						
科目概要	<p>1.本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を養う。</p> <p>2.介護過程の意義・目的及び介護過程展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程をチームアプローチ、子熱事例を通じた介護過程の展開の実践について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。</p> <p>3.介護福祉士、介護支援専門員の実務経験を活かし、本人の望む生活の実現にむけた生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う思考過程について解説する。</p>						
到達目標	<p>1.介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点が持てる。</p> <p>2.介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を習得する。</p> <p>3.個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげられる。</p>						
評価方法 基準	介護過程における各シートの成果、出席率・平常点、筆記試験の実施、それぞれを点数化し、10%・10%・80%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施（学則に準じて評価）。						
成績評価の フィードバック	介護過程における各シート・試験の採点后、答案を返却する。理解が不十分な点については、各自復習や課題の履修において理解を深める。不合格者については、個別対応とする。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>事例による介護過程の展開シートの復習、国家試験過去問題の実施するため、再復習を望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガンダンス 介護過程とは	介護過程とは、根拠に基づいた介護の展開、介護過程の意義と基礎的理解	
2	介護過程とは	介護過程の全体像 [演習]介護過程の疑似体験	
3	介護過程とは	介護過程における事例検討・事例研究の必要性	
4	介護過程の理解	介護過程の展開 アセスメント(情報収集)	
5	介護過程の理解	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)→ 計画の立案→介護の実施→評価について	
6	介護過程の実践的理解	[演習]介護過程における考え方	
7	介護過程の実践的理解	[演習]根拠に基づいた介護への理解	
8	介護過程の実践的理解	[演習]アセスメントにおける考え方①	
9	介護過程の実践的理解	[演習]介護実習先での指導の違いを考察	
10	介護過程の実践的理解	[演習]アセスメントにおける考え方②	
11	ICFとは	ICFの理解、介護過程との関連性	
12	情報収集に必要な知識	移動・移乗に特化した情報収集	
13	情報収集に必要な知識	食事に特化した情報収集	
14	情報収集に必要な知識	排泄に特化した情報収集	
15	前期まとめ	振り返り、前期期末試験(課題実施)	

回	単元	内容	備考
16	情報収集に必要な知識	入浴に特化した情報収集	
17	情報収集に必要な知識	豊かさ・環境因子・個人因子に特化した情報収集	
18	アセスメント	[演習]事例に基づき情報収集シートの作成①	
19	アセスメント	[演習]事例に基づき情報収集シートの作成②	
20	アセスメント	[演習]事例に基づき情報収集シートの作成③	
21	アセスメント	[演習]事例に基づき情報収集シートの作成④	
22	アセスメント	[演習]事例に基づき情報収集シートの作成⑤	
23	アセスメント	情報の解釈・関連づけ・統合化	
24	目標の立案	情報の解釈・関連づけ・統合化と目標①	
25	目標の立案	情報の解釈・関連づけ・統合化と目標②	
26	介護過程の展開の理解	[演習]事例による介護過程の展開① アセスメントから目標設定まで	
27	介護過程の展開の理解	[演習]事例による介護過程の展開① アセスメントから目標設定まで	
28	介護過程とチームアプローチ	介護過程とケアマネジメント チームアプローチにおける介護福祉士の役割	
29	まとめ	まとめ 振り返り	
30	前期定期考査	前期定期考査	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	90	対象年次	2
科目名	介護過程 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	茂田井 美絵 井上 千帆		
使用教材	テキスト 新・介護福祉士養成講座9「介護過程」第2版（中央法規出版） 本校作成プリント（随時配布）						
科目概要	<p>1.本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p> <p>2.介護過程の意義と基礎的理解を学び実践的展開ができる。</p> <p>3.介護過程におけるチームアプローチを学ぶ。</p> <p>4.ケースカンファレンスやサービス提供責任者会議の運営方法を学ぶ。</p> <p>5.介護福祉士及び介護支援専門員の実務経験を活かし、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護計画作成に必要な考え方について解説する。</p>						
到達目標	<p>1.情報収集能力や分析力を身につける。</p> <p>2.介護過程の実践的展開が、計画用紙に展開し理解できる。</p> <p>3.介護過程におけるチームアプローチを理解できる。</p> <p>4.カンファレンスやサービス提供責任者などの会議内容を理解する。</p> <p>5.受け持ちケースを検討し事例研究発表ができる。</p>						
評価方法 基準	客観(筆記) 試験90%、提出物及び出席率10%で評価し、60点以上のものに単位を認定する。(学則に準じて評価する)						
成績評価の フィードバック	アセスメント用紙、介護計画用紙については、事例やDVDをもとに、情報収集を行い、介護計画を考案していくため随時提出してもらい、チェックをして返却する。また、不十分な場合は個別指導などでフォローしていく。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>介護実習に直結していく科目であるため、授業は欠席をしないようにしてほしい。また、介護実習IIで実施した2ケースのアセスメントシートを活用し介護計画の授業に活かしていくため実習先でのケアプランについても事前に確認をしておくこと。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 1年次の復習	介護実習における介護過程の展開 介護過程の復習	
2	アセスメント表の作成	[事例演習] アセスメント表の作成と目標の設定①	
3	アセスメント表の作成	[事例演習] アセスメント表の作成と目標の設定②	
4	介護過程の展開の理解①	[事例演習 1]介護過程の展開 グループホームにおける認知症高齢者①	
5	介護過程の展開の理解①	[事例演習 1]介護過程の展開 グループホームにおける認知症高齢者②	
6	介護過程の展開の理解①	[事例演習 2]介護過程の展開 脳性麻痺のある男性①	
7	介護過程の展開の理解①	[事例演習 2]介護過程の展開 脳性麻痺のある男性②	
8	介護過程の展開の理解①	[事例演習 3]介護過程の展開 在宅における脳血管疾患のある女性①	
9	介護過程の展開の理解①	[事例演習 3]介護過程の展開 在宅における脳血管疾患のある女性②	
10	介護過程の展開の理解①	[事例演習 4]介護過程の展開 介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性①	
11	介護過程の展開の理解①	[事例演習 4]介護過程の展開 介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性②	
12	介護過程とケアマネジメント	介護過程とケアマネジメントの関係性	
13	介護過程とチームアプローチ	チームアプローチにおける介護福祉士の役割 介護福祉職チームと介護過程	
14	介護過程とチームアプローチ	介護過程と多職種連携 [演習]サービス担当者会議	
15	前期のまとめ	振り返り、定期考査	

回	単元	内容	備考
16	利用者の生活と介護過程の展開	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	
17	利用者の生活と介護過程の展開	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開①	
18	利用者の生活と介護過程の展開	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開②	
19	利用者の生活と介護過程の展開	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開③	
20	介護過程の展開の理解②	事例研究の仕方、卒業論文の書き方	
21	介護過程の展開の理解②	実習における実践報告、事例研究①	
22	介護過程の展開の理解②	実習における実践報告、事例研究②	
23	介護過程の展開の理解②	実習における実践報告、事例研究③	
24	介護過程の展開の理解②	実習における実践報告、事例研究④	
25	介護過程の展開の理解②	実習における実践報告、事例研究⑤	
26	介護過程の展開の理解②	実習における実践報告、事例研究⑥	
27	介護過程の展開の理解②	実習における実践報告、事例研究⑦	
28	介護過程の展開の理解②	事例研究発表①	
29	介護過程の展開の理解②	事例研究発表②	
30	後期まとめ	振り返り、総合評価	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	90	対象年次	1
科目名	介護総合演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	茂田井 美絵 井上 千帆		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」第2版 (中央法規出版)						
科目概要	<p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。また、介護実践の科学的探求を目指す。</p> <p>介護福祉士の実務経験を活かし、介護実習の備えや心構え、介護実習日誌や介護記録の書き方、介護実習での体験内容や注意すべき事項を細かに講義するとともに、自己の課題を明確にし深化を図る指導を行う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.実習の学習効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。 2.実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を習得できる。 3.質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を活用できる。 						
評価方法 基準	提出物、課題レポートで評価する。60点以上を合格とし、不合格者については、学則に準じて評価する。						
成績評価の フィードバック	実習の関連様式や振り返りシートなどを提出してもらい、その都度個別指導を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>介護実習Ⅰに向けて、実習先への事前訪問の連絡や事前オリエンテーションなどの細部にわたっての指導も含まれているため欠席のないよう取り組んでほしい。また、介護実習施設の概要や利用者理解、他の科目との関連もあるため総合的な技術・知識を養ってほしい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護実習とは何か	ガイダンス 介護総合演習の意義・目的	
2	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識①	介護実習の意義と目的 実習施設・事業の理解-[DVD]活躍の場の理解	
3	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識①	実習施設・事業の理解-居宅系サービス	
4	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識①	実習施設・事業の理解-施設サービス	
5	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識①	実習施設・事業の理解-居住系サービス・障害者 総合支援法によるサービス	
6	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識①	実習施設・事業所がある地域の理解 社会資源との関わり	
7	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識②	介護実習Ⅰの目的とおもな実習内容 介護実習Ⅱの目的とおもな実習内容	
8	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識②	介護実習前の学びと実習後の学びのいかし方 介護実習前の学習内容と方法	
9	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識②	介護実習Ⅰのねらいと実習モデル 介護実習モデル①	
10	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識②	介護実習モデル②③	
11	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	ケア・コミュニケーション [演習]実習前に学ぶこと	
12	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	介護実習目標の具体的な立て方	
13	[施設見学] 介護実習の場の理解	施設見学における学び、福祉用具や設備の見 学、レクリエーション活動	
14	[施設見学] 介護実習の場の理解	施設見学における学び、福祉用具や設備の見 学、レクリエーション活動、振り返り	
15	前期のまとめ	振り返り、定期考査	

回	単元	内容	備考
16	後期ガイダンス	前期の復習 実習要項・関係書類について	
17	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	実習記録の意義と目的、方法、留意点 実習日誌の書き方	
18	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	[演習]事例に基づき実習日誌の作成	
19	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	[演習]事例に基づき実習日誌の作成	
20	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	[演習]事例に基づき実習日誌の作成	
21	実習前オリエンテーション	個人情報の取り扱いと関連法について 実習における諸注意	
22	実習前オリエンテーション	個人票の作成 実習施設概要の書き方と作成	
23	実習前オリエンテーション	実習目標の書き方と作成	
24	実習前オリエンテーション	プロセスレコードの書き方	
25	実習前オリエンテーション	実習オリエンテーション(事前訪問)について 事前訪問のアポイントメントを取る	
26	実習前オリエンテーション	介護実習先の年間行事や各種委員会等について	
27	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	介護記録と介護実習記録の違い 介護記録の作成方法	
28	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	介護記録の作成方法	
29	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	介護記録の作成方法	
30	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	介護実習中の学習の内容と方法① 実習中の態度、日々の行動目標	

回	単元	内容	備考
31	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	介護実習中の学習の内容と方法② 観察と考察、報告・連絡・相談	
32	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識③	介護実習中の学習の内容と方法③ 実習中の事故や不測の事態への対応、その他	
33	介護実習Ⅰへの備え	介護実習Ⅰの直前確認と注意事項	
34	介護実習中の学び	[帰校日] 実習中の情報共有、実習日誌作成への指導	
35	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識④	介護実習後の学習の内容と方法 介護実習記録のまとめ、お礼状作成	
36	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識④	介護実習の振り返りと自己評価 自己の課題と展望	
37	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識④	介護実習Ⅰ報告会	
38	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識④	介護実習Ⅰのまとめと学びの共有・深化	
39	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識④	介護実習Ⅰのまとめと学びの共有・深化	
40	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識④	介護実習Ⅰのまとめと学びの共有・深化	
41	知識と技術の統合 介護実習Ⅱの展開	介護実習Ⅱのねらいと実習モデル	
42	知識と技術の統合 介護実習Ⅱの展開	実習モデル・介護過程を展開する介護実習	
43	知識と技術の統合 介護実習Ⅱの展開	実習モデル・介護過程を展開する介護実習	
44	知識と技術の統合 介護実習Ⅱの展開	実習モデル・介護過程を展開する介護実習	
45	後期まとめ	振り返り、定期考査	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	介護総合演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	茂田井 美絵 井上 千帆		
使用教材	新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版(中央法規出版)実習要項、プリント(随時配布)						
科目概要	<p>実習課題や目標を明確化させると同時に、必要な事前・事後学習の支援を行うことで、効果的かつ円滑な介護実習が実施できることを目的とする。介護実習においては、基本的な知識・技術はもちろん実習に対する姿勢や取り組みなどにおいて、様々な角度から助言アドバイスをしていきたい。</p> <p>介護福祉士の実務経験を活かし、介護実習の備えや心構え、介護実習日誌や介護記録の書き方、介護実習での体験内容や注意すべき事項を細かに講義するとともに、専門職としての根拠に基づいた介護を実践できる能力を養う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別ケースをとり介護計画を進める能力を高めると共に、最終実習の介護実習への心構えやノウハウを身につける。 2. 介護福祉士としての専門性を学び、チームワークの重要性や実習をふりかえることにより、より良いケアとは何かを理解できる。 3. それぞれの実習の課題様式を理解し記録し考察できる。 						
評価方法 基準	提出物、課題レポートで評価する。60点以上を合格とし、不合格者については、学則に準じて評価する。						
成績評価の フィードバック	実習の関連様式や振り返りシートなどを提出してもらい、その都度個別指導を実施する。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>介護実習Ⅱ・Ⅲに向けて、実習先への事前訪問の連絡や事前オリエンテーションなどの細部にわたっての指導も含まれているため欠席のないよう取り組んでほしい。また、介護実習施設の概要や利用者理解、他の科目との関連もあるため総合的な技術・知識を養ってほしい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 介護実習について	介護実習を実施するにあたり 介護実習Ⅱ・Ⅲについて	
2	実習前オリエンテーション	介護実習Ⅱ事前準備 個人票作成、介護実習の目標設定	
3	実習前オリエンテーション	介護実習Ⅱ事前準備 実習施設概要の作成、実習記録作成準備	
4	実習前オリエンテーション	実習オリエンテーション(事前訪問)について 事前訪問のアポイントメントを取る	
5	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識⑤	訪問介護実習オリエンテーション	
6	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識⑤	実習への備え、実習直前オリエンテーション	
7	介護実習中の学び	[帰校日] 実習中の情報共有、実習日誌・課題の指導	
8	介護実習中の学び	[帰校日] 実習中の情報共有、実習日誌・課題の指導	
9	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識⑤	介護実習後の振り返り 介護実習記録のまとめ、お礼状作成	
10	知識と技術の統合 実習に関する基礎知識⑤	介護実習後の振り返り 学習のまとめ、学びの共有・深化	
11	実習前オリエンテーション	介護実習Ⅲ事前準備 個人票作成、介護実習の目標設定	
12	実習前オリエンテーション	介護実習Ⅲ事前準備 実習施設概要の作成、実習記録作成準備	
13	実習前オリエンテーション	実習オリエンテーション(事前訪問)について 事前訪問のアポイントメントを取る	
14	まとめ	介護実践の科学的探求、介護総合演習における 知識と技術の統合化と介護観の形成	
15	総まとめ	介護実習報告会、研究内容の発表	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	実習
開講学科	介護福祉学科			配当時間	90	対象年次	1
科目名	介護実習Ⅰ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	井上 千帆 茂田井 美絵		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版(中央法規出版)、実習指導要項、介護実習記録						
科目概要	<p>1.地域におけるさまざまな場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的知識を養う。</p> <p>2.利用者の特性を理解し、施設での1日の流れを知る。</p> <p>3.利用者とのコミュニケーションとの取り方を学ぶ。</p> <p>4.日常生活の支援方法を学ぶ。</p> <p>5.介護福祉士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて自立支援に向けた介護実践の実際や資質を確認することを支援し、福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。</p>						
到達目標	<p>1.対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に活用できる。</p> <p>2.実習施設の概要を知る。</p> <p>3.日常生活援助を通して利用者とコミュニケーションを取る。</p>						
評価方法 基準	実習評価表と教員による評価を総合的に判断し、60点以上の者を合格とし、単位を与える。(詳細については学則及び実習要項に記載)						
成績評価の フィードバック	介護実習の中間と終了後に振り返りシートを記載し、巡回指導教員が個別指導を実施する。また、概ね週1回の巡回指導において、実習指導者を交えカンファレンスを実施し、実習の取り組みや課題の進捗状況を確認し十分に介護実習に取り組めるようサポートする。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 実習要項に記載						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護実習Ⅰ	実習施設・事業等（Ⅰ）にて90時間の 実習を行う。	
2	地域における生活支援の実 践	対象者の生活と地域との関わり 地域拠点としての施設。事業所の役割	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

回	単元	内容	備考
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	前期	形態	実習	
開講学科	介護福祉学科				配当時間	180	対象年次	2
科目名	介護実習Ⅱ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				担当者	茂田井 美絵 井上 千帆		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版(中央法規出版)、実習指導要項、介護実習記録、課題							
科目概要	<p>1.対象利用者を決め介護過程の展開に必要なアセスメントを実施する。</p> <p>2.施設における介護福祉職としての介護技術を習得する。</p> <p>3.施設の機能と介護福祉士の役割を理解する。</p> <p>4.介護福祉士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて本人の望む生活の実現に向けた取組みや多職種協働の実際や資質を確認することを支援し、福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。</p>							
到達目標	<p>1.高齢者や障害者の障害や心理を理解し、個々の障害の程度に応じた介護技術を身につける。</p> <p>2.介護過程の展開を通じて対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶことができる。</p> <p>3.利用者に対するアセスメントの方法を理解する。</p>							
評価方法 基準	<p>実習評価表と教員による評価を総合的に判断し、60点以上の者を合格とし単位を与える。</p> <p>(詳細については学則及び実習要項に記載)</p>							
成績評価の フィードバック	<p>介護実習の中間と終了後に振り返りシートを記載し、巡回指導教員が個別指導を実施する。また、概ね週1回の巡回指導において、実習指導者を交えカンファレンスを実施し、実習の取り組みや課題の進捗状況を確認し十分に介護実習に取り組めるようサポートする。</p>							
事前準備	<p><input type="checkbox"/> なし</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> あり</p> <p>介護実習要項に記載</p>							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護実習Ⅱ	実習施設・事業等（Ⅱ）にて180時間の実習を行う。	
2	介護過程の実践的展開	利用者に対するアセスメントの方法を理解する	
3	多職種協働の実践	サービス担当者会議やケースカンファレンスを通じて、介護福祉士の役割の理解や多職種連携を体験的に学ぶ	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

回	单元	内容	備考
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	前期	形態	実習	
開講学科	介護福祉学科				配当時間	180	対象年次	2
科目名	介護実習Ⅱ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				担当者	茂田井 美絵 井上 千帆		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版(中央法規出版)、実習指導要項、介護実習記録、課題							
科目概要	<p>1.個別ケアを行うために個々の生活リズムや個別性を理解する。</p> <p>2.介護過程のアセスメント→課題抽出→計画立案→実施→評価までを行う。</p> <p>3.施設の機能と多職種連携及び介護福祉士の役割を理解する。</p> <p>4.介護過程の実践的展開、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践を学ぶ。</p> <p>5.介護福祉士の実務経験を活かし、学生が実習を通じて本人の望む生活の実現に向けた取組みや介護過程を実践や資質を確認することを支援し、福祉に関わる専門職としてのあるべき知識・技能・態度を高める指導を行う。</p>							
到達目標	<p>1.利用者に対する介護過程の展開を実施する。</p> <p>2.施設業務全体の流れと施設内の各職種の役割及び連携の方法を理解する。</p> <p>3.施設業務へ参加し介護技術を習得し、職員間の連携を理解する。</p> <p>4.介護過程の展開を通じて対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶことができる。</p>							
評価方法 基準	<p>実習評価表と教員による評価を総合的に判断し、60点以上の者を合格とし単位を与える。</p> <p>(詳細については学則及び実習要項に記載)</p>							
成績評価の フィードバック	<p>介護実習の中間と終了後に振り返りシートを記載し、巡回指導教員が個別指導を実施する。また、概ね週1回の巡回指導において、実習指導者を交えカンファレンスを実施し、実習の取り組みや課題の進捗状況を確認し十分に介護実習に取り組めるようサポートする。</p>							
事前準備	<p><input type="checkbox"/> なし</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> あり</p> <p>介護実習要項に記載</p>							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護実習Ⅲ	実習施設・事業等（Ⅱ）にて180時間の実習を行う。	
2	介護過程の実践的展開	利用者に対するアセスメントの方法を理解する	
3	多職種協働の実践	サービス担当者会議やケースカンファレンスを通じて、介護福祉士の役割の理解や多職種連携を体験的に学ぶ	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

回	単元	内容	備考
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

履修区分	必修	単位数	8	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	120	対象年次	1
科目名	ころとからだのしくみ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	小澤 好美		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 1 1 「ころとからだのしくみ」第2版（中央法規）						
科目概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習。 看護師の実務経験を活かし、介護福祉士として必要な医学知識の基礎について講義する。この科目を通じて、さまざまな疾病が高齢者に及ぼす弊害を理解できるよう解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、ころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。 						
評価方法 基準	定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、学習態度及び課題の提出状況（20%）等で、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。 評価規定については、学科に規定に準ずる。						
成績評価の フィードバック	知識確認のため、適宜小テストを行う。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 新聞、テレビ、インターネット等には、介護に関する関連記事も多いので日頃から関心をもっておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	「健康」とは何か	健康とは	
2	「健康」とは何か	健康を阻害する要因	
3	こころのしくみの理解	人間の欲求の基本的理解	
4	こころのしくみの理解	自己概念と尊厳	
5	からだのしくみの理解	脳・神経の構造と名称①	
6	からだのしくみの理解	脳・神経の構造と名称②	
7	こころのしくみの理解	脳・神経のしくみ①	
8	こころのしくみの理解	脳・神経のしくみ②	
9	こころのしくみの理解	脳・神経のしくみ③	
10	こころのしくみの理解	学習のしくみ①	
11	こころのしくみの理解	学習のしくみ②	
12	こころのしくみの理解	記憶のしくみ①	
13	こころのしくみの理解	記憶のしくみ②	
14	こころのしくみの理解	思考のしくみ①	
15	こころのしくみの理解	思考のしくみ②	

回	単元	内容	備考
16	こころのしくみの理解	適応機制①	
17	こころのしくみの理解	適応機制②	
18	からだのしくみの理解	骨・筋肉・関節の構造と名称①	
19	からだのしくみの理解	骨・筋肉・関節の構造と名称②	
20	からだのしくみの理解	骨・筋肉・関節のしくみ①	
21	からだのしくみの理解	骨・筋肉・関節のしくみ②	
22	からだのしくみの理解	呼吸器、循環器の構造と名称①	
23	からだのしくみの理解	呼吸器、循環器の構造と名称②	
24	からだのしくみの理解	呼吸器、循環器のしくみ①	
25	からだのしくみの理解	呼吸器、循環器のしくみ②	
26	からだのしくみの理解	消化器、泌尿器・生殖器の構造と名称①	
27	からだのしくみの理解	消化器、泌尿器・生殖器の構造と名称②	
28	からだのしくみの理解	消化器、泌尿器・生殖器のしくみ①	
29	からだのしくみの理解	消化器、泌尿器・生殖器のしくみ②	
30	からだのしくみの理解	感覚器・内分泌・血液のしくみ①	

回	単元	内容	備考
31	からだのしくみの理解	感覚器・内分泌・血液のしくみ②	
32	身じたくに関連したところ とからだのしくみ	身じたくのしくみ①	
33	身じたくに関連したところ とからだのしくみ	身じたくのしくみ②	
34	身じたくに関連したところ とからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	
35	身じたくに関連したところ とからだのしくみ	変化の気づきと対応	
36	入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ①	
37	入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ②	
38	入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	
39	入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみ	変化の気づきと対応	
40	移動に関連したところと からだのしくみ	移動のしくみ①	
41	移動に関連したところと からだのしくみ	移動のしくみ②	
42	移動に関連したところと からだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	
43	移動に関連したところと からだのしくみ	変化の気づきと対応	
44	休息・睡眠に関連したこ ろとからだのしくみ	睡眠のしくみ①	
45	休息・睡眠に関連したこ ろとからだのしくみ	睡眠のしくみ②	

回	単元	内容	備考
46	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	
47	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応	
48	食事に関連したところとからだのしくみ	食事のしくみ①	
49	食事に関連したところとからだのしくみ	食事のしくみ②	
50	食事に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	
51	食事に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応	
52	排泄に関連したところとからだのしくみ	排泄のしくみ①	
53	排泄に関連したところとからだのしくみ	排泄のしくみ②	
54	排泄に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	
55	排泄に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応	
56	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	
57	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	「死」に対するところの理解	
58	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	終末期から危篤状態、死後のからだの理解	
59	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	終末期における医療職との連携	
60	ところとからだのしくみ	まとめ/確認試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	1
科目名	発達と老化の理解 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	小澤 好美		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」第2版（中央法規）、プリントを用いた講義						
科目概要	<p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。</p> <p>看護師の実務経験を活かし、認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から医療職とどのように連携していくかについて講義する。</p>						
到達目標	<p>1.人間の成長と発達の基礎的理解ができる。</p> <p>2.老化が生活に及ぼす影響が理解できる。</p> <p>3.高齢者のライフサイクルの特徴に応じた生活支援の知識を持つことができる。</p>						
評価方法 基準	定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、学習態度及び課題の提出状況(20%)等で、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価規定については、学科に規定に準ずる。						
成績評価の フィードバック	知識確認のため、適宜小テストを行う。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>新聞、テレビ、インターネット等には、介護に関する関連記事も多いので日頃から関心をもっておく。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	人間の成長と発達の基礎的理解	成長・発達の考え方 成長・発達の原則・法則	
2	人間の成長と発達の基礎的理解	成長・発達に影響する要因	
3	人間の発達段階と発達課題	発達理論 発達段階と発達課題	
4	人間の発達段階と発達課題	身体的機能の成長と発達	
5	人間の発達段階と発達課題	心理的機能の発達	
6	人間の発達段階と発達課題	社会的機能の発達	
7	老年期の特徴と発達課題	老年期の定義 老化とは	
8	老年期の特徴と発達課題	老年期の発達課題	
9	老年期の特徴と発達課題	老年期をめぐる今日的課題	
10	老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響	
11	老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響	
12	老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う心理的な変化と生活への影響	
13	老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う心理的な変化と生活への影響	
14	老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う社会的な変化と生活への影響	
15	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康	

回	単元	内容	備考
16	高齢者と健康	高齢者の症状・疾患の特徴 ①	
17	高齢者と健康	高齢者の症状・疾患の特徴 ②	
18	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨格系・筋系	
19	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系	
20	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	皮膚・感覚器系	
21	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系	
22	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	呼吸器系	
23	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	消化器系	
24	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系	
25	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	内分泌・代謝系	
26	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患 悪性新生物（がん）	
27	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	感染症	
28	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	精神疾患 その他	
29	保健医療職との連携	多職種との連携	
30	まとめ	確認試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	1
科目名	認知症の理解 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	小澤 好美		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 1 3 「認知症の理解」第2版（中央法規）						
科目概要	<p>認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得する。</p> <p>看護師の実務経験を活かし、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の基礎的理解ができる。 2. 認知症の症状・診断・治療・予防が理解できる。 3. 認知症ケアの歴史と理念が理解できる。 4. 認知症ケアの実際が理解できる。 5. 介護者支援が理解できる。 6. 認知症の人の地域生活支援が理解できる。 						
評価方法 基準	定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、学習態度及び課題の提出状況（20%）等で、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価規定については、学科に規定に準ずる。						
成績評価の フィードバック	知識確認のため、適宜小テストを行う。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>新聞、テレビ、インターネット等には、「認知症」に関する関連記事も多いので日頃から関心をもっておく。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	認知症サポーター研修	認知症サポーター研修①	
2	認知症サポーター研修	認知症サポーター研修②	
3	認知症の基礎的理解	認知症を取り巻く状況 認知症のある高齢者の現状と今後	
4	認知症の基礎的理解	認知症とは何か	
5	認知症の基礎的理解	脳のしくみ	
6	認知症の基礎的理解	脳のしくみ	
7	認知症の基礎的理解	認知症の人の心理	
8	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	中核症状の理解	
9	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	中核症状の理解	
10	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	生活障害の理解	
11	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	BPSDの理解	
12	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	BPSDの理解	
13	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の診断と重症度	
14	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の原因疾患と症状・生活障害①	
15	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の原因疾患と症状・生活障害②	

回	単元	内容	備考
16	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の治療薬	
17	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の予防	
18	認知症ケアの歴史と理念	認知症の人を取り巻く状況	
19	認知症ケアの歴史と理念	認知症ケアの理念と視点	
20	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	パーソン・センタード・ケア①	
21	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	パーソン・センタード・ケア②	
22	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	アセスメントツール：センター方式	
23	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	アセスメントツール：ひもときシート	
24	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症の人へのアプローチ：ユマニチュード	
25	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	環境づくり	
26	介護者支援	家族への支援	
27	介護者支援	介護福祉職への支援	
28	認知症の人の地域生活支援	制度、サービス、機関、地域づくり	
29	認知症の人の地域生活支援	連携と協働	
30	まとめ	確認試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	前期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	2
科目名	障害の理解 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	小澤 好美		
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座「障害の理解」14 第2版（中央法規出版）						
科目概要	<p>介護と医療の連携をふまえた実践力の向上を前提として、障害のある人の身体機能や心理を理解し、家族や地域を含めた障害のある人の生活支援について学習する。</p> <p>看護師の実務経験を活かし、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲環境への支援を理解するための基礎的知識について解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.障害の概念、障害福祉の基本理念、障害者福祉制度が理解できる。 2.障害種別ごとの身体的・心理的側面をふまえた生活とそれに応じた支援が理解できる。 3.障害のある人の地域生活を支えるさまざまな社会資源・関係機関との連携や、関係職種とのチームアプローチのあり方が理解できる。 4.家族に焦点をあて、家族支援のあり方を学ぶことができる。 						
評価方法 基準	定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、学習態度及び課題の提出状況(20%)等で、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価規定については、学科に規定に準ずる。						
成績評価の フィードバック	知識確認のため、適宜小テストを行う。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>新聞、テレビ、インターネット等には、介護に関する関連記事も多いので日頃から関心をもっておく。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	障害の基本的理解	障害の概念①	
2	障害の基本的理解	障害の概念②	
3	障害の基本的理解	障害福祉者福祉の基本理念①	
4	障害の基本的理解	障害福祉者福祉の基本理念②	
5	障害の基本的理解	障害福祉者福祉に関連する制度①	
6	障害の基本的理解	障害福祉者福祉に関連する制度②	
7	障害の基本的理解	障害福祉制度と介護保険制度①	
8	障害の基本的理解	障害福祉制度と介護保険制度②	
9	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	障害のある人の心理	
10	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	肢体不自由（運動機能障害）	
11	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援	
12	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	感覚器の障害・重複障害	
13	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	内部障害①	
14	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	内部障害②	
15	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援	

回	単元	内容	備考
16	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	重症心身障害	
17	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	知的障害	
18	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	精神障害	
19	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援	
20	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	高次脳機能障害	
21	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	発達障害	
22	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援	
23	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	難病①	
24	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	難病②	
25	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援	
26	連携と協働	チームアプローチ、地域サポート体制 ①	
27	連携と協働	チームアプローチ、地域サポート体制 ②	
28	家族への支援	家族への支援①	
29	家族への支援	家族への支援②	
30	まとめ	障害の理解 確認試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義・演習
開講学科	介護福祉学科			配当時間	84	対象年次	2
科目名	医療的ケア <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	小澤 好美 非常勤講師		
使用教材	テキスト 新・介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」第2版（中央法規）、講義ごとに演習問題を配布、視聴覚教材 DVD「喀痰吸引・経管栄養の手順と留意点」						
科目概要	医療職との連携を基にして、医療的ケアを安全かつ適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 看護師の実務経験を活かし、医療的ケアが必要な人の安楽な生活を支えるという観点のもと、医療的ケアを安全・適切に実施できる手順の正しい技能を習得する訓練を行う。						
到達目標	1.医療ケアを必要とする人に対して、関係法規および尊厳と自立、医療倫理そして安全管理、感染予防の知識を習得する。 2.安全・安楽な生活を支える観点から「医療的ケア」の提供に必要な基礎的知識と技術を習得する。 3.医療職と連携協働していくために、報告すべき観察ポイントを理解するための基礎的知識の習得、「状態を観察し、医療者に何を報告するか判断する」ために、コミュニケーション力、判断力、危機を予測する力を習得する。						
評価方法 基準	1.省令で定める講義の時間数（休憩を除いた実時間50時間以上）を受講する。 2.定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、学習態度及び課題の提出状況(20%)等で、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。 3.省令で定める修得すべきすべての行為ごとの実施回数以上の演習を実施した上で、「基礎研修（演習）評価基準」で示す手順どおりに実施できた場合、単位認定とする。 4.出席状況が全体の2/3以上である。遅刻・早退（30分以内）合計数3をもって1の欠課とみなす。						
成績評価の フィードバック	1.「喀痰吸引」「経管栄養」「救急蘇生法」の行為別に、講義を受けてから演習を実施し、知識と技術を連動させる。 2.演習指導講師は、学生と一緒に振り返りを行い、学生は次の演習の改善につなげる。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり 先修条件として「こころとからだのしくみ」「障害の理解」「発達と老化の理解」を履修していることが望ましい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	医療的ケア実施の基礎	人間と社会	
2	医療的ケア実施の基礎	保健医療制度とチーム医療①	
3	医療的ケア実施の基礎	保健医療制度とチーム医療②	
4	医療的ケア実施の基礎	清潔保持と感染予防	
5	医療的ケア実施の基礎	安全な療養生活①	
6	医療的ケア実施の基礎	安全な療養生活②	
7	医療的ケア実施の基礎	健康状態の把握①	
8	医療的ケア実施の基礎	健康状態の把握②	
9	喀痰吸引（基礎的知識）	喀痰吸引概論①	
10	喀痰吸引（基礎的知識）	喀痰吸引概論②	
11	喀痰吸引（基礎的知識）	喀痰吸引概論③	
12	喀痰吸引（基礎的知識）	喀痰吸引概論④	
13	喀痰吸引（基礎的知識）	喀痰吸引概論⑤	
14	喀痰吸引（基礎的知識）	喀痰吸引概論⑥	
15	喀痰吸引（基礎的知識）	喀痰吸引概論⑦	

回	単元	内容	備考
16	喀痰吸引（実施手順）	喀痰吸引実施手順①	
17	喀痰吸引（実施手順）	喀痰吸引実施手順②	
18	喀痰吸引（実施手順）	喀痰吸引実施手順③	
19	喀痰吸引（実施手順）	喀痰吸引実施手順④	
20	喀痰吸引（実施手順）	喀痰吸引実施手順⑤	
21	喀痰吸引（実施手順）	鼻腔内吸引の実施	
22	喀痰吸引（実施手順）	鼻腔内吸引の実施	
23	喀痰吸引（演習）	鼻腔内吸引の演習	
24	喀痰吸引（実施手順）	口腔内吸引の実施	
25	喀痰吸引（実施手順）	口腔内吸引の実施	
26	喀痰吸引（演習）	口腔内吸引の演習	
27	喀痰吸引（実施手順）	気管カニューレ内吸引の実施	
28	喀痰吸引（実施手順）	気管カニューレ内吸引の実施	
29	喀痰吸引（演習）	気管カニューレ内吸引の演習	
30	前期試験	医療的ケアの基礎	

回	単元	内容	備考
31	経管栄養（基礎的知識）	経管栄養概論①	
32	経管栄養（基礎的知識）	経管栄養概論②	
33	経管栄養（基礎的知識）	経管栄養概論③	
34	経管栄養（基礎的知識）	経管栄養概論④	
35	経管栄養（基礎的知識）	経管栄養概論⑤	
36	経管栄養（基礎的知識）	経管栄養概論⑥	
37	経管栄養（基礎的知識）	経管栄養概論⑦	
38	経管栄養（実施手順）	経管栄養実施手順①	
39	経管栄養（実施手順）	経管栄養実施手順②	
40	経管栄養（実施手順）	経管栄養実施手順③	
41	経管栄養（実施手順）	経管栄養実施手順④	
42	経管栄養（実施手順）	経管栄養実施手順⑤	
43	経管栄養（実施手順）	経管栄養実施手順⑥	
44	経管栄養（実施手順）	経鼻経管栄養の実施手順	
45	経管栄養（実施手順）	経鼻経管栄養の実施手順	

回	単元	内容	備考
46	経管栄養（実施手順）	経鼻経管栄養の実施手順	
47	経管栄養（実施手順）	経鼻経管栄養の実施手順	
48	経管栄養（演習）	経鼻経管栄養の演習	
49	経管栄養（実施手順）	胃ろう経管栄養の実施手順	
50	経管栄養（実施手順）	胃ろう経管栄養の実施手順	
51	経管栄養（実施手順）	胃ろう経管栄養の実施手順	
52	経管栄養（演習）	胃ろう経管栄養の演習	
53	救急蘇生法	救急蘇生法の基礎知識	
54	救急蘇生法（基礎知識・実施手順）	救急蘇生法の基礎知識	
55	救急蘇生法（演習）	救急蘇生法の演習	
56	終講試験	定期考査（医療的ケア分野）	
57			
58			
59			
60			

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	実技
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	パソコン操作法 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	川邊 昌一		
使用教材	テキスト 「30時間でマスター office2019」 (実教出版) プリント (随時配布)						
科目概要	介護現場において記録の電子化が進んでおり、パソコンの基本操作や文書入力が必要なスキルとなっている。介護福祉士として円滑な記録業務遂行のためにWindowsの基本的操作や文書作成を行い、実践的な活用方法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.漢字・かな・カナ・アルファベットの使分け、複写等機能が使用できる。 2.文書入力、及び画像や地図の挿入、グラフィック機能を活用し、チラシを作成できる。 3.差込み印刷やはがき作成の技術を習得し、ビジネス文書作成に応用できる。 4.Excelを活用し、基本的な関数を活用して表計算ができる。 5.パワーポイントを活用し、プレゼンテーション資料が作成できる。 						
評価方法 基準	単元末、期末に文書作成、Word機能を活用したチラシの作成、及びプレゼンテーション資料を作成し提出。さらに、授業態度や取り組み姿勢を評価40%対象とし、成果物の60%合計で総合的に勘案し、60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施(学則に準じて評価)。						
成績評価の フィードバック	授業毎の習得状況の確認、及び指導を実施、課題の成果については、返却。不合格者については、個別対応とする。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり テキストを参照し、学ぶべきことをイメージしておくことを望む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コンピューター基礎知識	Windows10の基礎、Microsoft Edgeとは	
2	Word2019 ①	Word2019とは、文字・文章の入力、ファイルの保存と読込み、移動とコピー等の基本操作	
3	Word2019 ②	表を活用した文書の作成、表の編集	
4	Word2019 ③	画像や図形を活用した文書の作成	
5	Word2019 ④	描画や図形の作成、画像の挿入・配置	
6	Word2019 ⑤	チラシの作成	
7	Excel2019 ①	Excel2019とは、表計算ソフトとは、表計算ソフトでの文字と数字	
8	Excel2019 ②	データ入力の基礎、基本的なワークシート編集	
9	Excel2019 ③	関数を使った計算式（合計・平均・最大・最小・数を数える-COUNT・COUNTA）	
10	Excel2019 ④	グラフの作成、条件判定と順位付け、検索関数の利用	
11	PowerPoint2019 ①	PowerPoint2019とは、プレゼンテーションの作成、文字修飾と図形の活用、グラフの活用、アニメーション効果	
12	PowerPoint2019 ②	表の活用と画像の挿入、ワードアートの挿入	
13	PowerPoint2019 ③	その他の機能 スライドショーの資料作成	
14	PowerPoint2019 ④	スライドショーの資料作成	
15	まとめ	振り返り、課題提出	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	レクリエーション活動援助法Ⅰ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	テキスト：楽しさをとおしたところの元気づくり レクリエーション支援の理論と方法（公益財団法人日本レクリエーション協会）						
科目概要	<p>介護福祉士養成課程において、コミュニケーション能力の重要性が高まっている。本講義では、人間関係づくりに必要なレクリエーションの理論と実技を学びながら、自らのところと身体を元気にすることを目的とする。</p> <p>介護福祉士として高齢者施設におけるレクリエーション実践の実務経験を活かし、単なる「余暇活動」ではなく「楽しさ」の形作りができる企画や実践力を身に付けることができる演習及び知識の統合を図る。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.レクリエーションとはなにかを理解する。 2.レクリエーション支援の理論を理解する。 3.レクリエーション支援の方法を身に付けることができる。 4.レクリエーションの楽しさを知ることができる。 5.自分自身が元気になるレクリエーションを楽しむ。 						
評価方法 基準	<p>期末に筆記試験を実施、授業に取り組む姿勢も評価、点数化し加点する。授業中に作成したプリントの課題や作品の提出に対しても、評価対象とする。60点以上を得点した者に単位を認定する（学科規定に準ずる）。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、答案を返却する。不合格者については、再試または課題を提出。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>小・中学校の音楽の時間に習った曲(童謡・唱歌等)を再確認し、色々な音楽に触れて欲しい。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	レクリエーション概論	レクリエーションとは レクリエーション支援とは	
2	楽しさの追求	手遊び体験	
3	レクリエーション支援理論	コミュニケーションと信頼関係づくり	
4	楽しさの経験	自分が楽しめるレクリエーション体験	
5	自主的・主体的に楽しむか を体験	レクリエーション・ゲーム体験	
6	個別支援案作成	個別支援案の作成方法と立案	
7	楽しさところの 元気づくりの理論	フロー・マズロー欲求5段階理論	
8	レクリエーション支援の 方法	レクリエーション支援の展開法 ソング・ダンス体験	
9	コミュニケーション・ ワークⅠ	CSSプロセス、アイスブレイキング技法	
10	コミュニケーション・ ワークⅡ	ホスピタリティ・トレーニング	
11	グループでの支援	グループづくり、グループでの支援案作成	
12	対象者にあわせた支援	グループ・レクリエーションで心がけたいこと	
13	こころと身体の元気づくり Ⅰ	チャレンジゲームの挑戦	
14	こころと身体の元気づくり Ⅱ	キャンプ体験	
15	まとめ	総まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	演習
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	レクリエーション活動援助法Ⅱ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	非常勤講師		
使用教材	プリント(随時配布)						
科目概要	<p>介護福祉士として、対象者個々人に合う「活動プランづくり」、1対1の場面での「コミュニケーション」、個々人に合わせた「活動のアレンジ」などを通じて、一人ひとりの生きがいを支援する方法を学ぶ。</p> <p>介護福祉士として高齢者施設におけるのレクリエーション実践の実務経験を活かし、単なる「余暇活動」ではなく「楽しさ」の形作りができる企画や実践力を身に付けることができる演習及び知識の統合を図る。</p>						
到達目標	<p>1. レクリエーション計画の作成・実施能力を習得する。</p> <p>2. 様々なレクリエーションを実践し、実施能力を習得する。</p>						
評価方法 基準	客観(筆記)試験、レクリエーションの発表を実施し、60点以下のものは、再試を実施する(学則に準じて評価する)。						
成績評価の フィードバック	答案を返却し、理解が不十分な部分については、各自復習をしておくこと。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>実習先やインターシップ先でどのような余暇活動が行われていたかを調べておく。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	福祉レクリエーション研究とは	福祉レクリエーション研究の目的と研究方法の説明	
2	レクリエーション実技 (1)	歌を使ったレク財・新聞紙を使ったレク財の実践	
3	レクリエーションとコミュニケーション	レク実践におけるコミュニケーションの意義について	
4	レクリエーション実技 (2)	紙テープ・洗濯ばさみを使ったレク財の実践	
5	レクリエーション実技 (3)	コミュニケーションを使ったレク財の実践	
6	レクリエーション財について(1)	レクダンス体験	
7	レクリエーション財について(2)	レク財を対象者の4つの側面から見て、アレンジする	
8	レクリエーション支援案作り(1)	各グループに分かれて支援案を作成する	
9	レクリエーション支援案作り(2)	各グループに分かれて支援案を作成する	
10	レクリエーション支援案の発表(1)	各グループが支援案に基づいて発表	
11	レクリエーション支援案の発表(2)	各グループが支援案に基づいて発表	
12	介護予防プログラムとは	介護保険制度における介護予防プログラムについて	
13	レクリエーション実技 (4)	チャレンジ・ザ・ランキング大会	
14	レクリエーション実技 (5)	キャンプ体験	
15	まとめ	確認テスト・振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1
科目名	キャリアデザインⅡ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	柏瀬 健一 西浦 昭次 井上 千帆		
使用教材	早稲田教育出版「サービス接客検定」公式テキスト 2級 本校作成ワーク						
科目概要	<p>教員としての実務経験を活かし、相手に満足を提供するという視点と、接客に関する事を講義する。介護福祉職において実践的に活かせるよう、相手の満足とは何か、具体的な考え方や行動の仕方やし話し方などを身に付ける。また、漢字能力・文章作成能力の向上及び要旨読解力の向上を目指しキャリアアップを図る。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉サービススタッフの資質（必要とされる要件、身だしなみ） 2. 対人技能（人間関係、接客知識、顧客心理、接客用語、マナーなど） 3. 実務技能（クレーム処理、社交儀礼、掲示物作成、電話対応など） 4. 常用漢字の読み書きができ、自分の意思を正しく表現できる。 5. 平易な文章の要約ができる。 						
評価方法 基準	<p>期末に筆記試験を行う。また、授業への取り組み姿勢を点数化し、筆記試験の得点に加点する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。</p>						
事前準備	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり <p>講義時には国語辞典または漢字辞典があるとよい（電子辞書でも可）。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	オリエンテーション・概要	単元確認、必要とされる要件・従事要件 P 14～41	521
2	対人技能①	サービスの意義・機能・種類の理解 P 41～54	521
3	対人技能②	従事知識 P 59～61	521
4	対人技能③	人間関係の対処・接遇者としてのマナー P 80～92	521
5	対人技能④	接遇用語・服装等 P 96～111	521
6	実務技能	問題処理・環境整備 P 116～124	521
7	専門知識	金品管理・搬送 P 129～135	521
8	まとめ	社交業務 P 141～	521
9	読解力①	オリエンテーション-伝わる文章を書くために 基本読解力	
10	読解力②	[演習] 指示読解と論理読解	
11	文章の要約①	文章構造の理解と基本要約力	
12	文章の要約②	[演習] 文章の要約	
13	介護記録の書き方①	伝わる介護記録を書くために 介護記録の記述の種類とその方法	
14	介護記録の書き方②	[演習] 介護記録の作成	
15	まとめ	振り返り、終演試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習
開講学科	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2
科目名	キャリアデザインⅢ <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業			担当者	柏瀬 健一 井上 千帆		
使用教材	本校作成、履歴書(生協) 本校作成ワークシート、介護給付費単位数サービスコード表(厚労省)						
科目概要	<p>教師としての実務経験を活かし、就職活動や実習を行うにあたり、自分はどのように物事を捉えるのか、どのようなコミュニケーションの癖があるのかなど、自己分析や対人コミュニケーション実践的演習を通して、総合的に円滑なコミュニケーションの仕方を身に付ける。さらに、介護福祉士にとって介護報酬の仕組みを理解し、将来の展望も含めたさまざまな福祉サービスにおける財務の仕組みを理解し、幅広い視野を養う。さらに、介護福祉士にとって介護報酬の仕組みを理解し、将来の展望も含めたさまざまな福祉サービスにおける財務の仕組みを理解し、幅広い視野を養う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 面接試験にも対応できる自己理解力を身につける。 2. 履歴書作成を含む自己表現力を身につける。 3. 実務において円滑なコミュニケーションを実践できる力を身につける。 4. 介護報酬のしくみを理解し、介護給付費明細書の作成ができる。 5. 介護報酬と介護福祉士の給与体系が理解できる。 6. コストを意識し業務に就くことのできる介護福祉士をめざす。 						
評価方法 基準	<p>各分野で50%ずつの配分とする。キャリアサポートにおいては、提出物、プレ面接、授業の取り組み姿勢を総合的に勘案し、点数化する。また、介護報酬に関する事務分野では、終演試験の結果を40%、授業への取り組み姿勢を10%とし総合的に判断する。両分野の成績を合わせ、総合的に60点以上を得点したものに単位を認定する。評価基準については、学科の規定による。</p>						
成績評価の フィードバック	<p>提出物などを点数化したものを返却する。</p>						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>これまでどのように物事を捉えてきたか、どのような経験があり、どのようなことを学んだのかを振り返り、積極的に発言・学習できるよう整理しておくことを望む。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	論作文演習①	論文の書き方（基礎基本編）	520・521
2	論作文演習②	論文の書き方（応用編Ⅰ）	520・521
3	論作文演習③	論文の書き方（応用編Ⅱ）	520・521
4	論作文演習④	論文の書き方（応用編Ⅲ）	520・521
5	論作文演習⑤	論文の書き方（応用編Ⅳ）	520・521
6	面接演習	面接の対応（個人・集団基礎基本編）	520・521
7	エントリーシート演習	自己PR・志望動機の書き方（基礎基本編）	520・521
8	論作文演習⑥	過去問テーマを用いた論作文の実践	520・521
9	介護報酬の流れ	介護報酬の流れ、関係機関とは	
10	福祉サービスにおける組織と運営	法人の種類と運営資金の流れ	
11	介護報酬のしくみと包括	包括医療、包括ケアと出来高払い方式	
12	各専門職と報酬との関係性	専門職種ごとの加算の種類	
13	介護給付費明細書の作成、及び各様式	介護給付費請求書の作成方法	
14	介護福祉士としてのコスト意識とは	ケアや日常使用物品などのコストについて	
15	介護事務のまとめ	振り返り、終末試験	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義
開講学科	介護福祉学科			配当時間	90	対象年次	2
科目名	福祉総合(模試)			担当者	井上 千帆 茂田井 美絵		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
使用教材	参考書(随時紹介)						
科目概要	<p>1.国家試験対策として過去問題に触れながら、模擬試験に取り組み今までの学習の復習を行いながら国家試験合格を目指す。</p> <p>2.介護福祉士の実務経験を活かし、介護福祉士国家試験の介護の基本や社会保障制度の出題項目や頻出事項について基本的知識を習得し、さらに練習問題や過去問題の演習及び解説により知識の統合を図る。</p>						
到達目標	<p>1.介護福祉士国家試験合格できる能力を身につける。</p> <p>2.得意科目、不得意科目を明確にし、不得意科目をなくす。</p> <p>3.各回の練習問題や模擬試験の結果をしっかりと分析し次回に臨む。</p>						
評価方法 基準	レポート提出、確認テスト、模擬試験結果を鑑み、評価する。60点以上の者に単位を認定する。(学則に準ずる。)						
成績評価の フィードバック	随時、練習問題や模擬試験を行い結果に基づいて個別指導を実施し、結果に見合ったレポートや補講を課す。						
事前準備	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり <p>国家試験合格を目指して、家庭においても学習の時間を確保し、しっかり取り取り組むこと。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	福祉模試対策	人間と尊厳の自立	
2	福祉模試対策	人間関係とコミュニケーション	
3	福祉模試対策	社会の理解	
4	福祉模試対策	発達と老化の理解	
5	福祉模試対策	認知症の理解	
6	福祉模試対策	障害の理解	
7	福祉模試対策	こころとからだのしくみ	
8	福祉模試対策	介護の基本	
9	福祉模試対策	コミュニケーション技術	
10	福祉模試対策	生活支援技術	
11	福祉模試対策	介護過程	
12	福祉模試対策	医療的ケア	
13	福祉模試対策	総合問題	
14	福祉模試対策	確認テスト実施	
15	福祉模試対策	確認テスト実施、採点・解説、振り返り	

回	単元	内容	備考
16	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施①	
17	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施① 自己採点、解説・振り返り	
18	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施②	
19	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施② 自己採点、解説・振り返り	
20	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施③	
21	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施③ 自己採点、解説・振り返り	
22	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施④	
23	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施④ 自己採点、解説・振り返り	
24	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施⑤	
25	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施⑤ 自己採点、解説・振り返り	
26	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施⑥	
27	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施⑥ 自己採点、解説・振り返り	
28	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施⑦	
29	模擬試験問題実施	模擬試験過去問題実施⑦ 自己採点、解説・振り返り	
30	模擬試験問題まとめ	総まとめ、頻出問題とその傾向	

回	単元	内容	備考
31	国家試験問題実施	国家試験過去問題実施①	
32	国家試験問題実施	模擬試験過去問題実施① 自己採点、解説・振り返り	
33	国家試験問題実施	国家試験過去問題実施②	
34	国家試験問題実施	模擬試験過去問題実施② 自己採点、解説・振り返り	
35	国家試験問題実施	国家試験過去問題実施③	
36	国家試験問題実施	模擬試験過去問題実施③ 自己採点、解説・振り返り	
37	国家試験問題実施	国家試験過去問題実施④	
38	国家試験問題実施	模擬試験過去問題実施④ 自己採点、解説・振り返り	
39	国家試験問題実施	国家試験過去問題実施⑤	
40	国家試験問題実施	模擬試験過去問題実施⑤ 自己採点、解説・振り返り	
41	各科目における重要項目の 復習	社会の理解	
42	各科目における重要項目の 復習	介護の基本	
43	各科目における重要項目の 復習	生活支援技術	
44	各科目における重要項目の 復習	こころとからだのしくみ	
45	各科目における重要項目の 復習	総合問題 図・イラストを用いた問題への対策	